

## ソーシャルアクションアカデミー2022 ソーシャルリサーチ学科 調査報告資料について

本資料は、NPO・プロボノワーカー・学術研究者の三者による協働のプログラム「ソーシャルアクションアカデミー／ソーシャルリサーチ学科」（認定NPO法人サービスグラント主催）で行った、**プロボノによる調査資料**です。

2022年度は、子どもや若者をめぐる課題の連鎖を断ち切り、希望をもたらす取り組みとして、「**フードバンク**」「**養育困難家庭の訪問型支援**」「**面会交流**」の3テーマをめぐる6件の社会調査を行いました。

本資料を引用される際は、出典について、以下の例を参考に記載いただきますようお願いいたします。

### 1. 資料のフッタにコピーライトを表示

#### 【記載例】

©ソーシャルアクションアカデミー

©Social Action Academy

### 2. 引用箇所の末尾等に資料の出所を表示

#### 【記載例】

資料：ソーシャルアクションアカデミー

資料：ソーシャルアクションアカデミー 2022年度調査報告書より

資料：認定NPO法人サービスグラント『ソーシャルアクションアカデミー』  
2022年度調査報告書より

※本調査報告は、多様な主体のネットワークのハブとなる学際的・横断的な研究プロジェクトを推進する実験的な取組「ソーシャルアクションタンク」に成果として蓄積・公開しています。

そのため、一部の報告書は、「ソーシャルアクションタンク」のひな型を利用しています。

### お問い合わせ

#### 認定NPO法人 サービスグラント（担当：小林・岡本）

SAA@servicegrant.or.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-2-10

〒541-0047 大阪府中央区淡路町2-5-16 淡路町ビル8階

<https://www.servicegrant.or.jp/>

# 訪問支援が必要な家庭への支援者に関する 現状・意識調査

2023年2月

ソーシャルアクションアカデミー  
リサーチ学科

吉田春香・橋本潤子・稲津かおり・池田明枝

## もくじ

1.	はじめに	1
1.1	本調査について	1
1.2	目的	1
2	研究方法	2
2.1	調査方法	2
2.2	ヒアリング及びアンケートの調査項目	2
2.3	分析方法	2
3	研究結果	3
3.1	調査対象の概要	3
3.2	調査結果	3
3.3	M-GTAを用いた分析	3
4	考察	5
4.1	子育てパートナーが活動を始めたきっかけ	5
4.2	子育てパートナーのやりがい	6
4.3	子育てパートナーへの説明会・研修	7
4.4	子育てパートナーの活動歴による違い	9
4.5	子育てパートナーの孤立化傾向	11
4.6	子育てパートナーの活動継続のためのポイント	12
4.7	子育てパートナーの業務上の負担	12
4.8	子育てパートナーと事務局・行政とのコミュニケーション	13
4.9	子育てパートナー同士のコミュニケーション	14
4.10	自由回答	15
5	私たちからの提案	17
5.1	LINEオープンチャットの導入	17
5.2	デジタルツールの活用	18
5.3	子育てパートナーへのケア	18
5.4	自己財源確保	18
6	おわりに	20
7	謝辞	21
	Appendix	

# 1. はじめに

## 1.1 本調査について

本調査は認定NPO法人サービスグラントが主催したソーシャルアクションアカデミー2022のソーシャルリサーチ学科の一つとして実施された。ソーシャルアクションアカデミー・ソーシャルリサーチ学科とは、社会課題解決に向けて、非営利組織と共に社会調査を企画・実行し、社会課題の可視化・構造化に取り組むことで、「社会課題を多角的に把握し考察する力」を実践的に学ぶプログラムである。

また、本調査ではアンケートの回収回答数が少なく、調査における「統計学的有意差」がないため、この白書にけるすべての研究結果は「考察」として進めていく。

## 1.2 目的

本調査の目的は、バディチームの子育てパートナーの現状を把握し、調査結果を今後の活動の担い手確保と支援の充実化に活用してもらうことである。

1. 子育てパートナーにとってのメリットと課題を把握し、活動の担い手の増加促進と継続率の向上につなげる
2. 子育てパートナーが支援活動を継続していくために必要な内容を深掘りし、より円滑な活動・運営にしていく

最終的には、バディチームの活動の拡大および横展開を目標に行政や企業へのアプローチの根拠資料として活用することを想定している。

## 2 研究方法

### 2.1 調査方法

バディチームの事務局コーディネーター、子育てパートナーおよび他団体の事務局を調査対象者と設定し、Zoomを用いた半構造化面接（ヒアリング）を実施した。さらに、子育てパートナーに対してはMicrosoft Formsで作成したWebベースのアンケートをバディチーム事務局を通じて依頼し、回答を得た。

### 2.2 ヒアリング及びアンケートの調査項目

【ヒアリングとアンケートの主な調査項目】 ※アンケートは計51問で設定した。

- ① バディチームを知ったきっかけ
- ② 支援活動のやりがい
- ③ バディチームへの所属意識について
- ④ 支援活動と支援先の家庭について
- ⑤ 支援の現場で大変な事
- ⑥ 支援活動の継続について
- ⑦ 支援をする上での悩み
- ⑧ コミュニケーション（対事務局、子育てパートナー同士の交流 など）

### 2.3 分析方法

【分析手法】

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA; 木下, 2003）を用いて分析した。

【修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）とは】

木下が提唱した修正版GTAの特性は、まずデータに基づいた分析であること、解釈とその意味（名づけ、コーディング＝下記にある概念、カテゴリー）をエッセンスに絞って分析することで、Glaser, Strauss, Corbinの方法より簡略化していることが挙げられる。したがって、M-GTAとは、インタビューデータから概念を生成し、複数の概念間の関係を解釈的にまとめ、最終的に結果図として図示する。具体的には、分析テーマに沿ってデータから概念を生成するにあたり、概念ごとにデータに密着した分析ワークシートを作成してその相互作用を検討し全体のストーリーラインに落とし込んでいく質的研究法である。

【分析の手順】

- ① Jamboardにアイデア出し
- ② 分析ワークシート（エクセル）の作成
- ③ カテゴリーに分類
- ④ 概念とカテゴリーから結果図とストーリーラインを作成
- ⑤ 調査結果から考察と提案をまとめる

### 3 研究結果

#### 3.1 調査対象の概要

【調査対象】

- ・バディチームの事務局スタッフ
- ・子育てパートナー（活動中、活動休止中含む）
- ・家庭への訪問活動支援を行う他団体の代表者

#### 3.2 調査結果

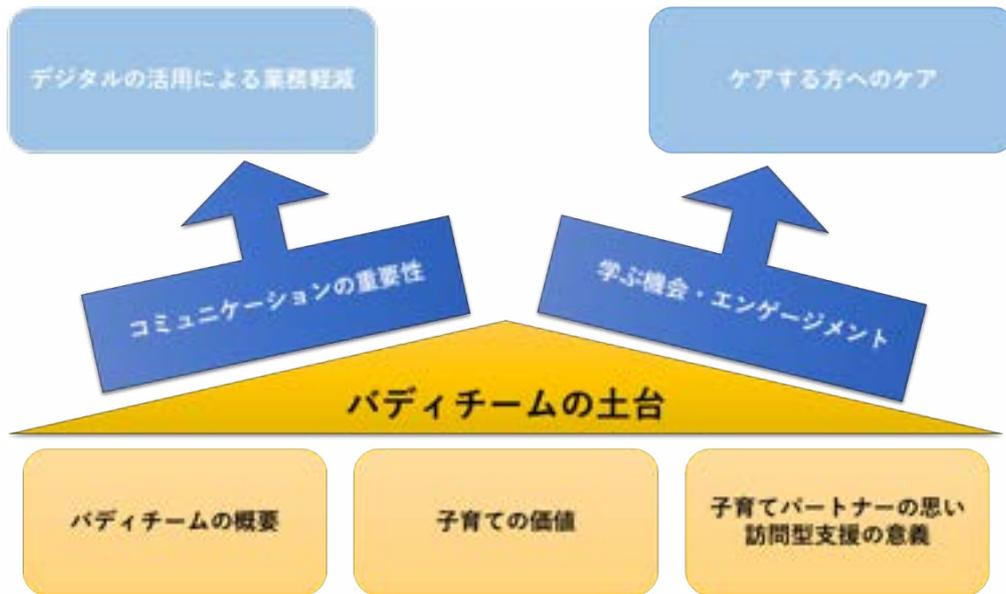
種類	調査対象者	調査方法	件数	メモ
質的調査	子育てパートナー（活動中）	ヒアリング	7	各1時間
	事務局スタッフ	ヒアリング	6	各1時間
	他団体（代表者）	ヒアリング	1	3団体へ依頼
量的調査	子育てパートナー （活動中および活動休止含む）	アンケート： 51問	59	81人に依頼

#### 3.3 M-GTAを用いた分析

##### 2. 概念とカテゴリーの精製

カテゴリー		概念
バディチームの土台	バディチームの概要	子育てパートナーの概要
		業務の負担
	リーダーシップ	
	同様に支援活動を行っている他団体との比較	
	子育ての価値	訪問支援活動を始めたきっかけ
		みんなで子育てをする社会
	子育てパートナーの思い 訪問型支援の意義	やりがい
		子育てパートナーの孤立
		気持ちの切り替え
		継続のコツ
デジタルの活用による業務負担の軽減	コミュニケーションの重要性	事務局とのコミュニケーション
		行政とのコミュニケーション
		子育てパートナーへのフォロー
		デジタルの活用による業務負担の軽減
ケアする方へのケア	学ぶ機会・エンゲージメント	学びや気づき
		パートナー歴3年以内と以上による比較

### 3. 結果図



### 4. ストーリーライン

#### ◆子育てパートナーにとってのメリット

- ・ボディチームでは、何か資格を取得していなくても活動に関わることができる
- ・事務局のフォローとサポートが行き届いているので、子育てパートナーは困った時には相談しやすい

#### ◆子育てパートナーにとっての課題

- ・子育てパートナーは事前研修が他団体と比べて少なく、現場経験などを重ねることで学ぶしかない
- ・活動報告書などが手書きなので、子育てパートナーは現場での活動以外の部分で時間や労力が取られる
- ・子育てパートナー活動歴が長い人や男性などが活動における悩みが深くなり、うまく気分転換ができず抱え込む場合もある

#### ◆ケアする方へのケア

- ・子育てパートナーへのケア  
子育てパートナー同士が気軽にコミュニケーションできる場を設置（チャット、ZOOMなど）すると現場での不安が軽減される
- ・子育てパートナーと事務局スタッフの双方へのケア  
デジタルツールを利用した業務の効率化により、報告書、スケジュール管理などを効率化することで子育てパートナーと事務局スタッフの双方の負担が軽減される
- ・子育てパートナー活動歴が長い人や男性に対するさらなるケア  
子育てパートナーがなかなか言葉にできない話をじっくり聞く機会を設けるなど、個別に何らかの対応をしてはどうか

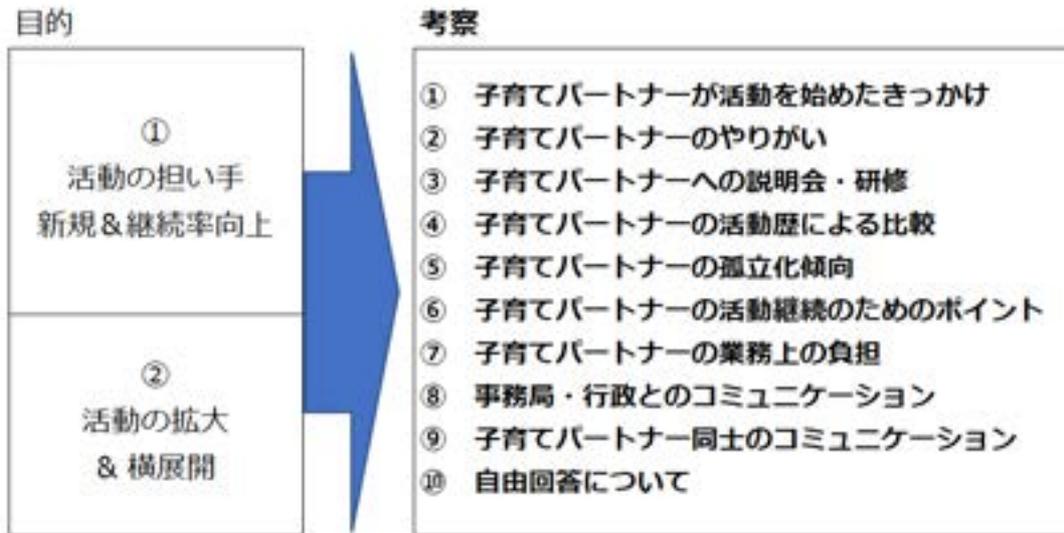
**◆将来的にバディチームの活動の拡大・横展開していくために**

・バディチームの自己財源の確保が課題

行政の支援基準から外れてしまうが支援が必要な家庭へのきめ細かい支援活動、デジタルツールを使う場合の使用料金など、自己財源が必要となる可能性がある

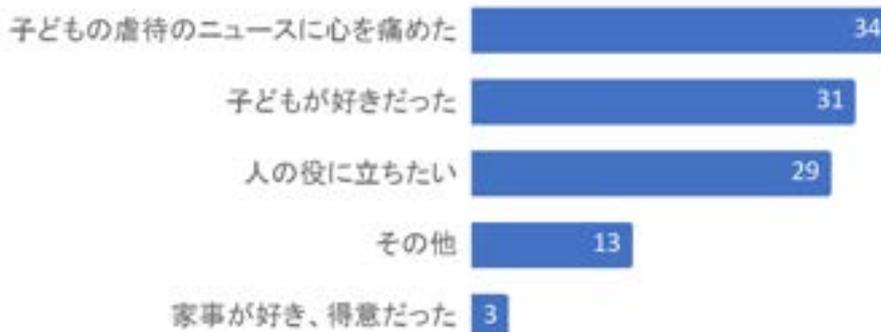
## 4 考察

M-GTAを用いた分析に基づいて、10の考察を導いた。



### 4.1 子育てパートナーが活動を始めたきっかけ

- アンケートQ13「バディチームの活動を始めようと思ったきっかけはなんですか？」
  - ・「子どもの虐待のニュースに心を痛めた」が最多で34人、「子どもが好きだった」が31人となり、「子どものために」という理由が多くを占めた。



※アンケート調査 複数回答可 (n=59)

#### ●ヒアリングから

- 資格がなくても支援に関われるから (40代・女性) 他数名
- 大学生の時、福祉系の勉強をしていて、児童相談所でボランティアをしていた。卒業後、時間的な余裕ができてから、またボランティアをしたいと思った (30代・女性)
- 子育てに困っている人に対して、自分の子育て経験を生かせる仕事がしたかった。社会福祉士の勉強を始めたが、取得まで時間がかかる。家庭に訪問支援する活動は少ないので、探すのが大変だったが現場に関われる機会のあるバディチームを知った (40代・女性)
- 家の外に出られない人の支援がしたいと考えた。自分の子が幼少期に入院・看病の繰り返しで孤立していた体験から、同様の人がいるのではないかと考えた (事務局スタッフ)
- 出版社で仕事をしていて忙しくて、自分の子どもを育てるのに精いっぱい。子どものことで保

このような語りから、支援に関心を持ち活動に参加したいと考えても、資格がないとできないと考えていた人が複数いたことが分かった。さらに、バディチームで支援活動の始めた方が、支援活動を始めてから専門資格がほしくなり、勉強を始めたケースがあることが分かった。

以上から、新規活動志望者・応募者へのアプローチとして「資格がなくてもできる」「これから資格取得を考えている人向き」といった点をアピールすることで、やりたいと思っても踏み出せない人には有効なのではないかと考えられる。

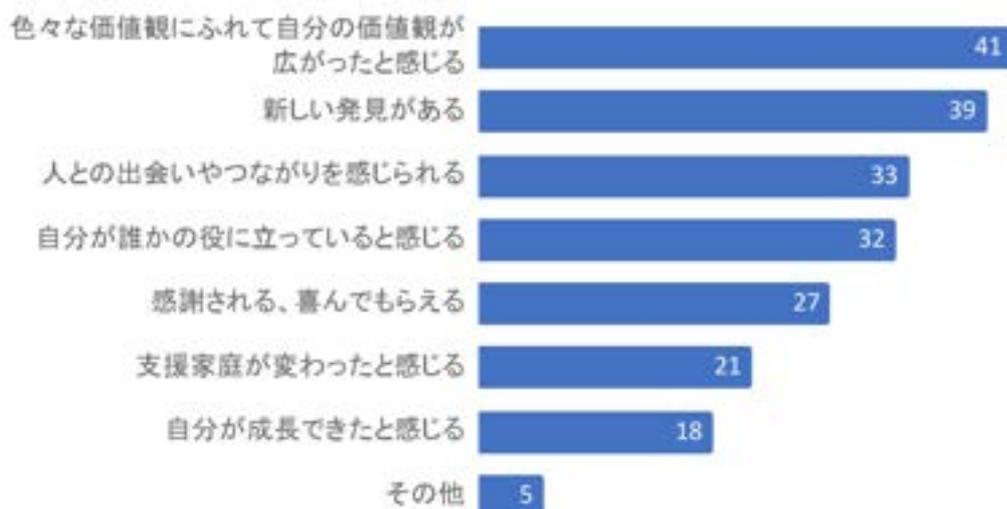
## 4.2 子育てパートナーのやりがい

●アンケート Q20「あなたが支援を行うことで、自分にとってプラスに感じることややりがいはありますか？」

・全ての子育てパートナーが、「ある」と「ややある」と回答した。「あまりない」「ない」は0人であった。

●アンケート Q21「それはどんなことに対してですか？（複数回答可）」

・「色々な価値観にふれて自分の価値観が広がったと感じる」が最多で41人、「新しい発見がある」が次に多く39人であった。



※アンケート調査 複数回答可 (n=59)

以上より、「結果=やりがい」という単純な関係ではなく、子育てパートナーは「家庭の中に支援に入ること」、「継続して支援すること」自体に意味があると考えている。

また、支援家庭への影響だけでなく、支援を通じて自分自身の価値観や世界が広がることに意義を感じている人も多いことが分かった。

## 4.3 子育てパートナーへの説明会・研修

### ◆説明会から登録まで

●2019年以前は、希望者全員に面接をし、その中で活動の説明を行っていた。しかしながら、登録

したが、支援家庭とのマッチングが合わない等のケースがあったことから、新規の応募者に対する説明会内容を変更した経緯がある。

#### ●説明会の変更点

・ <特にこんな人に子育てパートナーをお願いしたい>、 <これまで続けるのが難しかった方の例> など、具体的な事例を紹介することで、今後活動していけるかどうか考えられるような内容を盛り込んだ。

#### ●説明会から登録までのフローの変更

- ・説明会に参加した上で、登録希望者に対して面接を実施する。
- ・ミスマッチを防ぐため、面接時にはスキルチェックシートも提出してもらう。

#### ●ヒアリングから

- 登録前に自己判断できるようになったことで、覚悟を決めて入ってもらえるようになった。最初の段階で、登録者が絞られるようになった結果、途中でやめる人やギャップを持つ人が減少した（事務局）

### ◆研修について

●バディチームの方針として、「子育てパートナーは、一般人としての感性や目線を大切にしてほしい」と考えている。そのため、座学などの研修より現場への同行及び事務局コーディネーターによる支援活動の前後の細やかなフォローを重視している。

#### ●アンケート Q47「事務局とのコミュニケーション（機会、頻度等）についてどう思いますか？」

・「満足」「やや満足」で59人中55人と回答したことから、子育てパートナーの大半が満足していることが分かった。

#### ●ヒアリングから

- 複数団体が参加する研究会が、定期的で開催されている。ある年からバディチームのスタッフが講師を担当したところ、参加者や行政担当者から視点が良いと評価された。現場でわかること、困ったこと、学びたいことなどが盛り込まれていて好評だった（事務局スタッフ）

以上より、2019年以降、説明会で現場の課題を細かく伝えられているため、登録後のギャップが生じにくくなり、子育てパートナーが活動を継続しやすくなっているのではないかと考えられる。

### ◆他団体との比較

次に、バディチームのように支援が必要な家庭への訪問活動支援を行っている団体は他にもあることから、比較分析・考察をすることとした。そこで、都内で活動する団体Aの代表者に対してヒアリングを実施した。

比較分析（表1）より、バディチームと比較した時に大きく違いが出た部分は、現場で訪問支援活動に入る支援者に対する研修時間であった。

団体Aは特に現場に入る前段階での研修に力を入れており、基本研修として30.5時間、その後もさらに専門的な研修を必要に応じて行っている。一方、バディチームは現場研修を含め10数時間であった。研修内容も団体Aはリスクマネジメントや子供の人権などを取り入れた幅広い内容で

あるが、バディチームは現場研修と現場への同行、フォローアップおよびサポートを行う等現場重視の内容である特徴が読み取れた。

これらの比較分析から、バディチームは現場での活動を重視し、経験値を上げることで、訪問支援の活動を充実させていると考えられる。

表1. バディチームと団体Aにおける研修に関する比較

	バディチーム	団体A
登録者数	約80人（活動休止中を含む）	180人
研修時間	現場研修を含め10数時間	支援活動に入る前の基本研修30.5時間
研修内容	現場研修・同行・またフォローアップ研修などを重視している。	専門家を講師として、リスクマネジメントや子供の人権などの内容を取り入れた演習方式の研修。2年間で受講した後、支援活動に入る。修了するまで、活動はできない。
研修に対する考え方	以前は長い時間かけた座学の研修をしていた時期もあった。頭で理解することを重視するより、適性や現場経験の大切にしている。プロフェッショナルな知識が豊富な人より、一般人としての目線で現場に関わることで支援家庭に寄り添えると考えている。	支援者のニーズに沿った研修会の開催、事例検討、年間4回以上のスキルアップを実施。支援活動に入った後も、必要に応じて専門的な研修あり。コーディネーターも毎回研修に参加することで、受講している支援者の資質や特徴を見極めて、マッチングに役立っている。
事務局からのフォロー	事務局コーディネーターが細やかに支援者に対して電話やメールでサポート	コーディネーター同席のもと、同じ家庭に入っている支援者同士の情報共有やフォローをしている。心理士や専門職に相談する機会も随時実施している。支援者が来所した際に、ねぎらいの声掛けもしている。

このように差が見られたが、各団体の活動理念に基づいたものである。

以上より、バディチームは現場での支援経験を重視し、経験値を上げることで、訪問支援の活動の質を担保していると考えられた。バディチーム事務局は研修も大事だが、それ以上に子育てパートナーへの個別フォローを充実させることが重要であると考えている。

#### ●ヒアリングから

- 現場に入る子育てパートナーは大変だと思うので、安心してパートナーさんが行けるような立場でありたいと心がけている（事務局スタッフ）
- 「受容・傾聴・共感」を常に心がけている。子育てパートナーに対しては、①感謝を忘れない②丁寧に話を聞く③モチベーションを下げない声掛けを忘れない（事務局スタッフ）
- 立場上、事前訪問に行くので、そのときにわかる範囲で情報を仕入れ、その情報を子育てパートナーに伝えている（事務局スタッフ）
- 自分が子育てパートナー時代に苦労したこと、事務局のスタッフにしてもらって良かったことなどを思い出しながら、事務局スタッフとして子育てパートナーにも気をつけるようにしている（事務局スタッフ）

#### 4.4 子育てパートナーの活動歴による違い

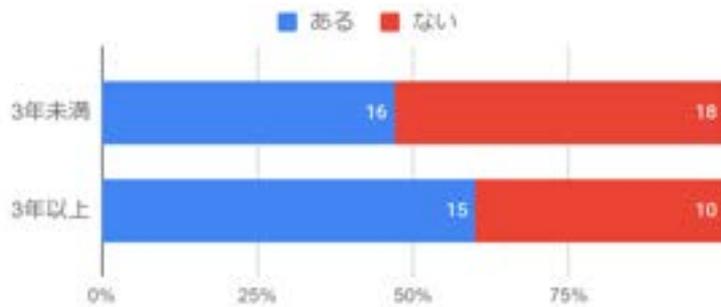
##### ◆活動歴3年未満・以上の比較

●アンケートでクロス集計した結果、活動歴が「3年未満」（34人）か「3年以上」（25人）で回答に差がみられた

##### ◆差のあった回答

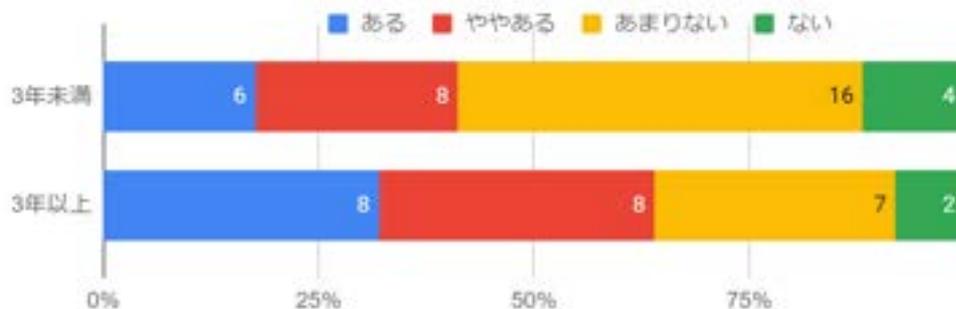
●アンケートQ18「あなたが支援に入る前にイメージしていたことと、支援後で何かギャップはありましたか？」

→「3年未満」は「ない」が53%。「3年以上」は「ある」が60%



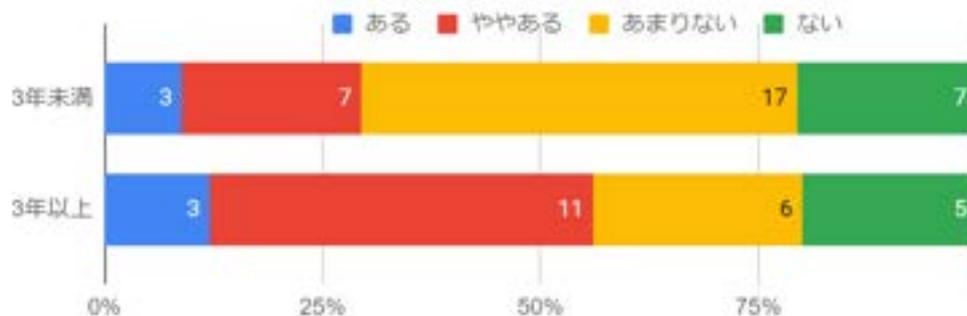
●アンケートQ27「あなたが支援の現場に行った時、辛いと思ったことはありますか？」

→「3年未満」は「あまりない」「ない」が59%。「3年以上」は「ある」「ややある」が64%

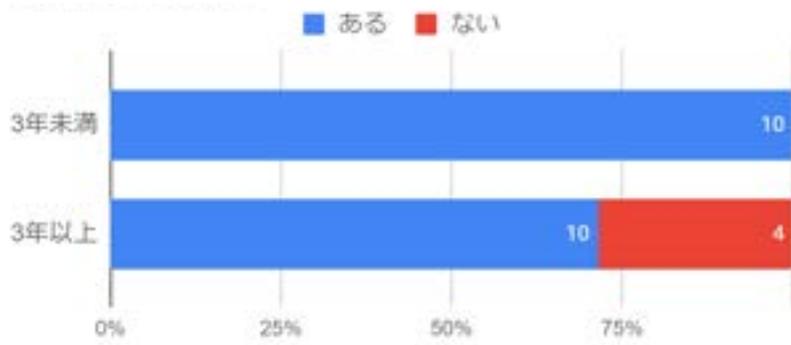


●アンケートQ30「支援終了後、家庭の大変さなどをひきずってしまうことはありますか？」

→「3年未満」は「あまりない」「ない」が71%。「3年以上」は「ある」「ややある」が56%



- アンケートQ31「気持ちの切り替えはうまくいっていますか？」  
→「3年未満」は「ある（できている）」が100%。「3年以上」は「ない（できていない）」が29%



以上より、3年以上の子育てパートナーがつらさをひきずったり、気持ちの切り替えがうまくできない傾向にあるのは、「経験の長さから様々なケースを見ている」や「難易度の高い家庭に訪問している」といった可能性が考えられる。

#### 4.5 子育てパートナーの孤立化傾向

##### ◆子育てパートナー自身に「孤立しているのではないか？」と推察される人もいる

- アンケートQ27「あなたが支援の現場に行った時、辛いと思ったことはありますか？」
  - ・「ある」「ややある」は30人（51%）であった。
- アンケートQ30「支援終了後、家庭の大変さなどをひきずってしまうことはありますか？」
  - ・「ある」「ややある」は24人（41%）であった。
  - ・アンケートQ31「気持ちの切り替えはうまくいっていますか？」については、「いいえ」と回答したのは4人であった。
  - ・辛いという気持ちを抱えている人が少数ではあるがいることが分かった。
- アンケートQ32「気持ちの切り替えや気分転換でどんなことをしていますか？」（自由回答）
  - なかなか切り替えや気分転換では気持ちは晴れないので特には何もしません。支援で関わる機会には短い時間や短い期間であっても自分の出来ることを精一杯にやる！という思いで取り組み、あとは割り切るしかないと考えます。（50代・女性）
  - 自分が訪問しない時は、ほかのパートナーが関わってくれている、と信じること。自分の出来ることを精一杯やり切っていると言い聞かせること。次は、もっと善い訪問に出来るよう日々、研鑽を積むこと。（50代・男性）
  - 人はそんなにすぐに変わるものではないと思うし、また絶対変われないと決めつけられるわけでもないと思う。縁あって関わる事ができた、ご家庭、親御さんやお子さんに対して、自分としては精いっぱいのことをしたつもり、だから支援が終わっても、なにか底辺のところ、そのつながりが継続していくような気がしています。関わったこと自体は感謝なことです。（60代・女性）

##### ◆それでも、活動は継続したいと考えている

- アンケートQ38「バディチームの支援活動を辞めたいと思ったことはありますか？」
  - ・「ない」が46人（78%）であった。
  - ・支援現場で辛いと思った人（30人）や気持ちを引きずってしまう人（24人）より、活動を続けたい人（46人）の方が多いことが分かった。

以上より、辛い思いをしたり、気持ちの切り替えがうまくできない子育てパートナーは、孤立

しやすいのではないかと推測される。それでも活動を辞めないのは、活動の意義を強く感じているからではないかと考えられる。

#### 4.6 子育てパートナーの活動継続のためのポイント

##### ◆継続のこつは「気持ちの切り替え」か

- アンケートQ31「辛い思いを引きずった時、気持ちの切り替えはうまくいっていますか？」
  - ・24人中20人(83%)が「はい」と回答した。
- アンケートQ32「気持ちの切り替えや気分転換でどんなことをしていますか？」（自由回答）
  - 自然に子どもと接していると元気になるので（60代・女性）
  - 帰り道に散歩、甘いものを食べる。友人とのたわいのないおしゃべり。（50代・女性）
  - 音楽を聴く、気持ちを書き出してみる（30代・女性）
  - 日常の仕事、趣味など。（40代・男性）
  - 美味しいものを食べる（50代・女性）
  - 報告事項は、その日のうちにまとめ、翌日にはすべて忘れる。良かったことだけ考える。（40代・女性）
  - 趣味や自分の時間を持つ（40代・女性）
  - 帰りにカフェでコーヒーを飲む。人生哲学を学ぶ。（50代・女性）
  - 事務局の方に報告する。おいしいもの、好きなものを食べる（30代・女性）
- アンケートQ40「支援を継続するために、自分なりに気をつけていることはありますか？」
  - ・「ある」が50人(85%)、「ない」が9人(15%)であった。

##### ●ヒアリングから

- 上から目線にならないこと。支援を受ける立場にとって、無料だからと引け目や申し訳なさを感じている可能性があるため、なるべく感じさせないように気をつけている（40代・女性）
- 指導的なことを相手には言わないこと。家庭を根本的に変える立場ではないので、自分にできることだけやる。支援するという気持ちが強いとよくない、相手の感情に引きずられてはいけないと習ったので、割り切るようにしている（40代・女性）

以上より、子育てパートナーの活動で大事なものは、あくまでも訪問支援先の家庭に「寄り添う」ことであることが分かった。それは支援家庭の背景や事情に入り込みすぎないことであり、この点を常に自覚していることが支援活動を継続するにあたって重要であることが分かった。同時に、子育てパートナーが考える継続のこつは「無理をしないこと」「距離感を保つこと」、「子育てパートナー自身の心身の健康」であることが明らかとなった。

#### 4.7 子育てパートナーの業務上の負担

- アンケートQ48「事務局に改善してほしいこと」への自由回答から
  - 予定の報告をweb上にスケジュール（カレンダー）を置き、自ら入力出来ると良い（50代・女性）
  - 報告書をメールで送れるように（50代・女性）
  - 報告書を、デジタルで送信出来るようにしてほしい。（20代・女性）
  - 各自治体の方針などにより難しさはありますが、報告などの提出はメールなどのオンラインになると便利だと思います。（40代・女性）
  - 同じ家庭の支援が続く場合、予定や時間変更などを事務所を通さずにやりとり出来たらいいなと思いました。（50代・女性）

## ●ヒアリングから

- 字が汚いので、手書きじゃないほうがいい（20代・女性）
- メールでやり取りしているが、自分はLINEが連絡手段のメインなので、もっとLINEを有効活用したい。メールだと返信し忘れることが多い（30代・女性）
- 報告書は手書きが多いが、報告することが多いと書く欄が狭くて書ける事が限られてしまうことがある。手短に重要な事のみ書くようにしているが、伝えたいことが多い場合は困る（女性）

以上より、報告書の提出などが効率的ではないと感じている子育てパートナーが一定数いることが分かった。将来的に提出書類や報告の作成のための時間や労力が軽減できるような施策を検討した方が良いのではないかと考えられる。

## 4.8 子育てパートナーと事務局・行政とのコミュニケーション

### ◆事務局とのコミュニケーション

#### ●アンケートQ47「事務局とのコミュニケーション（機会、頻度等）についてどう思いますか？」

- ・「満足」「やや満足」で59人中55人(93%)となっていて、大半が満足していることが分かった。

#### ●アンケートQ48「事務局に改善や工夫してほしいことはありますか？」

- 予定の報告をweb上にスケジュール（カレンダー）を置き、自ら入力出来ると良い。（50代・女性）
- 報告書を、デジタルで送信出来るようにして欲しい。（20代・女性）
- 各自治体の方針などにより難しさはありますが、報告などの提出はメールなどのオンラインになると便利だと思います。（40代・女性）
- 同じ家庭の支援が続く場合、予定や時間変更などを事務所を通さずにやりとり出来たらいいなと思いました。（50代・女性）
- 事務局の人数が近年増えているみたいだが、子育てパートナーの人たちが置いてきぼりになっているなど感じることもある。「使い、使われる」というような図式までには今はまだなっていないと思うが、チームとしてへもっと一丸となれるような交流がほしい。（30代・女性）

## ●ヒアリングから

- 言うてはいけない（話すとフラッシュバックなど）ワードなど、事前に教えてもらえると助かる。以前、こちらが言った言葉で、相手を怒らせてしまったケースがあったので（女性）

### ◆行政とのコミュニケーション

#### ●アンケート自由回答から

- ・行政⇄バディチーム事務局しか事実上つながっていない。

- 三者の三角形に加えて、実際問題は行政も加えた四角形ですね。四角形とは言っても、行政とはバディチーム事務局という頂点からしか事実上つながっていないですね。やっぱり、ここが見えづらいということがネックになっている気がします。（50代・男性）アンケートから抜粋

## ●ヒアリングから

- 行政（区）の1/3は、報告書は手書きと言われる。ボールペンで書いて、間違えたら二重線を引く

など細かい。事務的にできるところは効率を上げて、その分、子育てパートナーへの相談などに時間を使うなど有効活用したい（事務局スタッフ）

- 訪問家庭への支援は、やりっぱなしになっているのは良くないと思う。支援後、その家庭がどうなったか、追跡できるようになっているといい（事務局スタッフ）

以上より、子育てパートナーは事務局とのコミュニケーションは基本メール、心配な場合は電話連絡しており、相談した心配ごとは事務局が対応してくれる安心感をもっている。一方で、デジタルツールなどを使用する報告等、事務局に業務を軽減するような施策をして欲しいと思っている方もいることが分かった。また、子育てパートナーは行政と直接やりとりすることはほとんどないため、支援の現場の状況や思いが行政に届いていないというギャップを感じていることが示唆された。

#### ◆他団体とのコミュニケーション

他団体とのコミュニケーションについての意見もあった。

##### ●ヒアリングから

- 団体ごとに試行錯誤の上で積み重ねてきたものがあるが、その団体内でしか共有できていない。多団体でもっと交流をしていくことで、お互いにブラッシュアップしていけるといい（事務局スタッフ）

## 4.9 子育てパートナー同士のコミュニケーション

#### ◆子育てパートナー同士のコミュニケーション

##### ●アンケートQ44「パートナー同士の交流の機会についてどう思いますか？」

・「増やしてほしい」が9人、「やや増やしてほしい」が13人、「今のままでいい」が37人、「減らしてほしい」が0人であった。

・パートナー同士の交流は「今のままでいい」と答える方が6割であった。

#### ◆話したい内容として

##### ●アンケート自由回答から

- 食事をつくることが多いので、ほかのパートナーさんがどんなメニューをつくって喜ばれたか、そのレシピなどを教えてほしい。（50代・女性）
- 情報共有の場。特に複数のパートナーさんが訪問している家庭について。（30代・女性）
- 同じご家庭に入っているパートナー同士の意見交換が出来るとうれしいです（40代・女性）
- 支援を見直す機会があると自分の支援を振り返れるので、そういう機会を作って欲しいです（20代・男性）

##### ●ヒアリングから

- 研修などで組んだ人と話をするといいい人が多いので、励みになる。方向性が同じ人と話をする事でメリットが大きい（40代・女性）
- メールでお知らせがあるので、交流会に参加したことがある。似たような時期に入った人と話をした。こんな時どうするかとか、活動終了時の終わらせ方については役に立った（20代・女性）
- 引継ぎがある場合は話をするが、その後もコミュニケーションがあるわけではない。できれば、

- 同じ家に訪問した人との意見交換などができる場があるといい（30代・女性）
- 訪問支援の活動はやっていない人にはわからない、理解してもらいづらい面があるので、実際にやっている人と話すと面白い（50代・女性）

#### ◆交流方法として

- アンケートQ46「パートナー同士の交流はオンラインと対面のどちらが良いですか？」
  - ・「オンラインの方がよい」が3人、「対面の方がよい」が24人、「両方選べる（ハイブリッド）」が32人であった。

現状では、事務局とのコミュニケーションで満足している人が多い。コロナの影響で、オンラインでのコミュニケーションに慣れた人が増えていると考えられる。

### 4.10 自由回答

#### ◆アンケートの自由回答の傾向として

- ・任意の自由回答欄への回答記入が非常に多く、回答にかかった平均時間は約25分であった。回答欄には、300～800字にもなる回答が寄せられた。

#### ◆自由回答からの分析

- アンケートQ16「バディチームの活動理念に共感していますか？」
  - ・1人を除いて58人が「強く共感する」「どちらかという共感する」と回答した。
  - ・それに続くQ17「どういった点に一番共感しますか？」では、54人/58人が自由回答欄に自分の思いを書いている。
    - 誰もが自分事として子育てに関わり、誰にとっても生きやすい世の中を目指す（50代・女性）
    - 子育て中や子育て経験の有無に関わらず「社会みんなで子育て」し、人として支え合っている理念、みな「生まれてきてよかった」と自己肯定できる理念にそれぞれとも共感する。（30代・女性）
    - 児童虐待の観点から、虐待にならないように母子支援をするという点（50代・女性）
    - 子どもはみんなで見て、育てて、守って、生きる力を支えて育てる（60代・男性）
    - 子どもだけでなく親の幸せも追求する点（20代・男性）
- アンケートQ34「ひきずってしまう内容を誰かに相談しましたか？」
  - ・「いいえ」と答えた9人に対して、Q37「相談されなかった理由をお聞かせください」に対して回答した人は9人中9人であった。
    - 守秘義務があるため（30代・女性）
    - 自分で消化できた（50代・女性）
    - 解決するつもりがないから（60代・男性）
- アンケートQ38「バディチームの支援活動を辞めたいと思ったことはありますか？」
  - ・「はい」と答えた13人に対して、アンケートQ39「辞めたいと思った理由をお聞かせください」に対して回答した人は13人中12人であった。
    - 精神的につらく感じる（50代・女性）
    - 仕事、両親の介護、等々で時間的余裕がなくなったことがあるので（50代・男性）
    - 体調が悪い時。元気でなければ支援は難しいと感じた。（50代・女性）
    - 訪問当日玄関のインターフォンを押すが不在だった（60代・女性）

●アンケートQ51「今後もあなたが支援活動を継続するために、事務局にどんなサポートがあればよいと思いますか？」

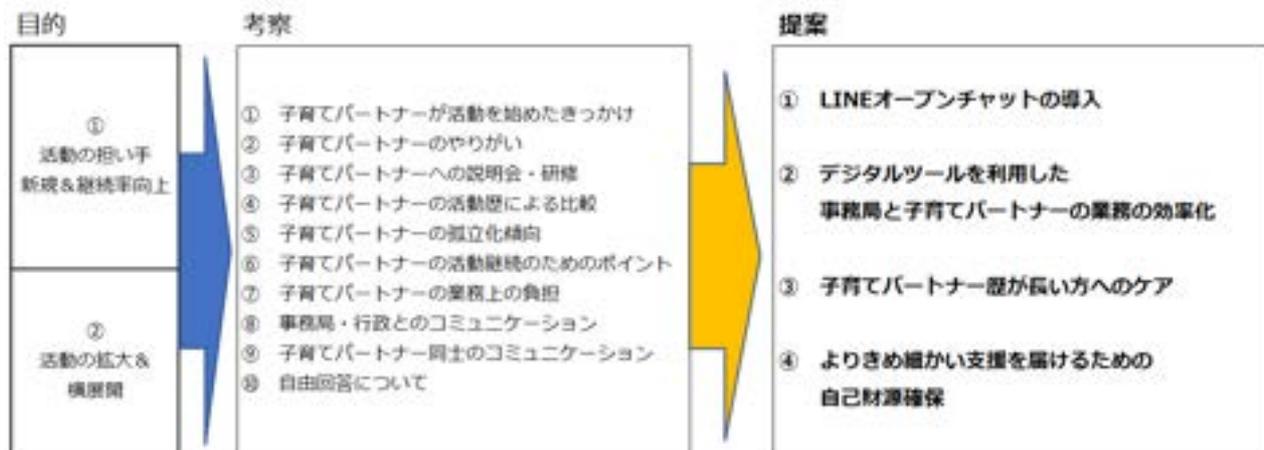
・59人中46人が回答し、その多くが事務局に対する感謝の言葉だった。

- 十分サポートしていただいています。(50代・女性)
- いつもきめ細やかなサポートをしていただいております、安心して活動できる。(40代・女性)
- これまで通りで大丈夫です。皆さん、話しやすく、安心できます。(30代・女性)
- これまで通りに、風通しの善い繋がり、対話をお願い致します。困難に皆んなで関わって解決していきますように、善い意味で「おせっかい」し続けましょう。(50代・男性)
- こちらが急に都合悪くなり、行けなくなってしまった時のバックアップ要員の確保(40代・女性)
- いつもサポートいただき本当にありがとうございます。保育や家事の知識があまりなく、後から「これ試せば良かったかも」ということがあるので、バディチームの通信などで豆知識を教えてくださいと嬉しいです。(イヤイヤするお子さんへのアプローチ方法、ベタベタの食器の洗い方、など)(20代・女性)

以上より、アンケートに協力してくれた子育てパートナーは現状や思いを伝えることで、バディチームの活動がより良くなることを望んでいるのではないかと考えられる。

## 5 私たちからの提案

考察から、私たちは4つの提案と今後の課題を検討した。



### 5.1 LINEオープンチャットの導入

#### ◆LINEオープンチャット<sup>1)</sup>の導入

すでに多くの方が利用しているLINEのプラットフォームを利用することで、より密で円滑な子育てパートナー同士の情報交換の場として活用できるのではないかと。

#### 【メリット】

- ・無料で利用できる。
- ・トークルーム自体はバディチーム関係者に限定でき、承認制で運営できる。
- ・匿名でいつでも自由にトークルームに参加・退室できる。
- ・トークルーム管理者を設定するので安心して投稿できる。
- ・個人情報関連でパートナー同士がリアルにつながる事を避けながら、悩み・相談・情報交換ができる。
- ・支援の現場で必要な情報(料理のレシピや掃除の方法など)をリアルタイムで得ることも可能になる。

#### 【課題】

- ・運営側は投稿内容などについて共通認識となるグラドルールを設定し、参加者に周知する必要がある。
- ・運営を担うマンパワーが足りない、適切に管理できないなどの課題が発生する可能性がある。  
→ 対策として、管理者とサブ管理者数名体制で共同運営し、それぞれ役割を決めることで、個々人の負担が解消すると考える。

<sup>1)</sup> LINEオープンチャットとはLINEで友だちになっていなくても、匿名でオープンチャットルームで話をしたり、興味のある情報を入手できるサービス

## 5.2 デジタルツールの活用

### ◆デジタルツールを利用した事務局と子育てパートナーの業務の効率化

報告書の作成およびスケジュール管理について、アプリやカレンダー等のツールを導入すれば効率よく共有できるのではないかと。

#### 【メリット】

- ・報告書の作成：報告書をエクセルやワードなどで入力し、オンラインストレージにファイル保存する。ストレージへのアクセス権があれば事務局内での共有も容易になると考えられる。
- ・スケジュール管理：情報共有できるカレンダー機能を活用することで時間や場所の制約なしでスケジュール調整が可能になると考えられる。

#### 【課題】

- ・ある程度、デジタルツールの使用に慣れている人、知識のある人が確保できるかどうか。
- ・適切なツールの選定と導入および子育てパートナーさんへの周知とトレーニングが必要となる。
- ・参考：Gmailを使っている方が多い場合はGoogleカレンダーで予定を共有すると導入しやすいのではないかと。

## 5.3 子育てパートナーへのケア

### ◆子育てパートナー歴が長い人へのケア

- ・活動歴が長い人  
辛さを引きずったり、気持ちの切り替えがうまくできない人が多い傾向が読み取れた。
- ・参考：男性の子育てパートナー（アンケートでの回答数は7人のみ）  
活動歴が長い人と同じ傾向の人がいた。  
男性の子育てパートナーは、全体でも男性は1割ほどしかいない。  
数が少ないから孤立しやすいのではないかと。
- ・どちらも活動は続けたいと考えていて、活動の意義を強く感じているからではないかと。
- ・そのような子育てパートナーに対する、何らかのフォローが必要。
- ・彼らの話を聞くことで、今後の活動へのいいヒントがある可能性があるのではないかと。

#### 【課題】

- ・気持ちの切り替えができていない子育てパートナーをどのようにして把握するか。
- ・事務局としては数年前から1件1件の家庭に対して丁寧に支援をすることに重点を置いているが、今後具体的にどのようなフォローが必要か、ニーズを把握する必要がある。
- ・子育てパートナーと一緒に悩んで一緒に対応する伴走型のケアが重要である。

## 5.4 自己財源確保

### ◆よりきめ細かい支援を届けるための自己財源確保

子育てパートナーは、一律の支援ではなく家庭ごとに必要な支援を柔軟に継続的に実施したいと思っている。

現在、行政などからの事業委託費を中心に、団体の運営を行っているバディチームにとって、自己財源を確保することは重要な課題である。

また、支援の現場で活躍している子育てパートナーへのケアに関して、行政からの財政支援を

得られるような働きかけができるといいのではないか。

【課題】

- ・ 支援活動の重要性を行政へどのように訴求していくか？
- ・ 寄付やクラウドファンディングなど、自己財源確保の手段を他にも考える必要がある。

## 6 おわりに

本調査により、バディチームの事務局と子育てパートナーが共に同じビジョンを持って支援活動を行っていることが明確になった。現場で活動している子育てパートナーの中には「共感疲労」を感じている方もいるのではないかという最初の仮定は、多くの子育てパートナーがネガティブな気持ちを引きずらずに切り替えられているという調査結果から見事に覆された。これはバディチームが活動を続けてきた中で支援の在り方を模索し、説明会や研修を改善するために試行錯誤した結果であると考えられる。バディチームのこのような人材育成のコンセプトは同様の支援活動を実施する他の団体にも適用できる可能性を示唆している。

私たち4人は子育てパートナーと同じくバディチームのビジョンに共感したからこそ、ソーシャルアクションアカデミーの理念である「チームの仲間と共に、心を動かす、体を動かす、社会を動かす」の通りにチーム一丸となって本調査をまとめることができた。(K)

アンケートに関して、当初の予想では「5分程度でできる」と考えていた。ところが、回答者の多くが、真摯な意見を自由回答欄にびっしりと書き込んでいた。回答に要した時間の平均が25分という数値を見て、安易な予想をしたことを反省した。

子育てパートナーは有資格者の専門職ではなく、資格を持たない非専門職者が活動している。しかし、非専門職者イコール「素人」ではない。むしろ、社会課題の解決に向けて熱い情熱を持ちつつ、現場では冷静に判断しながら行動する「プロフェッショナル」だということがわかった。調査を通じて、子育てパートナーのみなさんに対する尊敬の念がわいた。

私たちがバディチームに関わったことで、訪問支援の活動に多少の貢献できたのであればこれほどうれしいことはない。(J)

当支援は支援対象者の改善の実感が少ないなかでも、「支援継続すること自体」が意義であるという目的意識を持ち活動されている子育てパートナーの想いに感銘を受けた。支援自体は家庭へ入り支援するという難易度の高いものであると感じるが、パートナー自身のケアの工夫、事務局スタッフとの情報共有が支援の継続に繋がっていることが今回の調査から分かった。社会課題に対して真摯に向き合い活動されている皆さんの存在を尊敬し心強く感じる。(Y)

本調査でバディチームのひとりひとりが真剣に活動に取り組んでいらっしゃる事が明確に結果となって表れた。アンケートの自由回答からもその熱意がしっかりと伝わってくる。バディチームの事務局さん、子育てパートナーさんのリアルな声(この報告書)を一人でも多くの方に読んでいただきたいと心からそのように思う！(H)

## 7 謝辞

本調査を進めるにあたり、バディチームの岡田さん、青木さんには終始全面的にサポートしていただき深く感謝いたします。さらに、快くヒアリングやアンケートにご協力いただいたバディチーム事務局の皆様・子育てパートナーの皆様には言葉では表せないほど感謝しております。

明治学院大学の坂口先生、茨木先生、石原先生、野沢先生には、多忙な中、ご助言とアドバイスをしてくださり、誠にありがとうございました。

また、サービスグラント・嵯峨さん、小林さん、岡本さん、メンターAkkoさん、メンターAyanoさんの惜しみないサポートやアドバイスなくして調査を実施し、結果をまとめることはできませんでした。

最後になりましたが、バディチーム同様、訪問支援活動をしている特定非営利活動法人ピッコロ・小俣さん、特定非営利活動法人日本子どもソーシャルワーク協会・寺出さんにもご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。

## ～Appendix～

### アンケートの設問（51問）

回答 必須 ○	Q No	設問	返答方法	選択肢案
○	1	年代を教えてください	選択	20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
○	2	性別を教えてください	選択	男性 女性 回答しない
○	3	現在の職業を教えてください	選択	会社員 パート・アルバイト 保育・児童福祉分野 福祉分野（介護、障がい等） 教育分野（学校、塾等） 医療分野 主婦・主夫 学生 その他（ ）
○	4	お住いの地域を教えてください	選択	東京都23区 23区外 神奈川県 埼玉県 千葉県 その他（ ）
○	5	現在、支援を行っていますか？	選択	はい（活動中） いいえ（活動休止中）
○	6	Q5で <b>はい（活動中）</b> と答えた方へ パートナー歴を教えてください	選択	1年未満 1～3年 3～5年 5年以上
○	7	Q5で <b>はい（活動中）</b> と答えた方へ 現在の活動頻度	選択	週1～2回 月1～2回 2・3ヶ月に1回 不定期 その他（ ）
○	8	Q5で <b>いいえ（活動休止中）</b> と答えた方へ パートナー歴（休止までの継続期間）を教えてください	選択	1年未満 1～3年 3～5年 5年以上
	9	Q5で <b>いいえ（活動休止中）</b> と答えた方へ 休止の理由を差し支えない範囲で教えてください	自由回答	
○	10	あなたはこれまでに何軒の家庭に行きましたか？ だいたい数字でお答えください。	選択	1～10 11～20 20～30 30以上 覚えていない
○	11	訪問家庭ではどのような支援をしましたか？ あてはまるものをすべてお選びください	選択（複数回答） +自由回答	家事 保育 学習支援 子どもの送迎 その他（ ）
○	12	パディチームを知ったきっかけを教えてください （複数回答可）	選択（複数回答） +自由回答	パディチームのHP、FBページをみた 検索エンジンから チラシを見た 人から紹介を受けた 講演会・セミナー・イベントなど その他（ ）
○	13	パディチームの活動を始めようと思ったきっかけは なんですか？（複数回答可）	選択（複数回答） +自由回答	子どもが好きだった 家事が好き、得意だった 子どもの虐待のニュースに心を痛めた 人の役に立ちたい

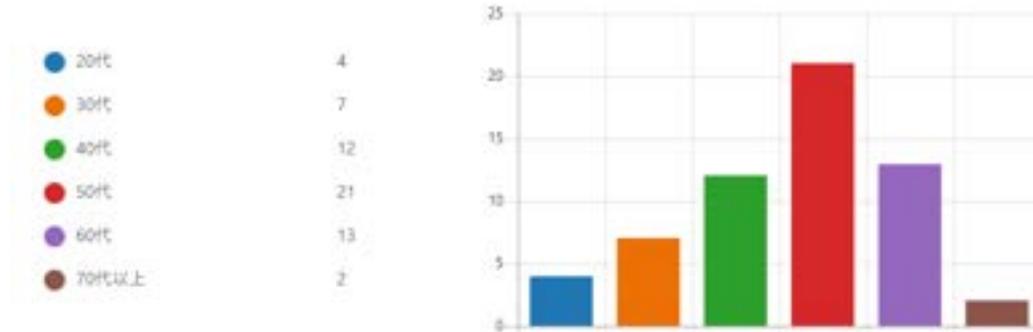
				その他 ( )
○	14	パディチームのビジョンは次の通りですが、 知っていましたか？  子ども大人も誰もが互いに支え合い、みんなで子育てすることで子どもがすやかに育つ社会	選択	はい いいえ
○	15	パディチームのミッションは次の通りですが、 知っていましたか？  子育てが大変になっているご家庭へパディチームは、子ども親も「生まれてきてよかった」と思うことができあなたがあなたらしく生きられるように、その歩みを支えます。	選択	はい いいえ
○	16	パディチームの活動理念に共感していますか？	選択	強く共感する どちらかという共感する どちらかという共感しない 全く共感しない
	17	Q16で <b>強く共感する、どちらかという共感する</b> と答えた方へ どういった点に一番共感しますか？	自由回答	
○	18	あなたが支援に入る前にイメージしていたことと、支援後で何かギャップはありましたか？	選択	ある なし
	19	Q18で <b>ある</b> と答えた方へ それはどのようなことですか？	自由回答	
○	20	あなたが支援を行うことで、自分にとってプラスに感じることややりがいはありますか？	選択	ある ややある あまりない ない
○	21	Q20で <b>ある、ややある</b> と答えた方へ それはどんなことに対してですか？(複数回答可)	選択(複数回答) +自由回答	・感謝される、喜んでもらえる ・自分が誰かの役に立っていると感じる ・色々な価値観にふれて自分の価値観が広がったと感じる ・新しい発見がある ・自分が成長できたと感じる ・支援家庭が変わったと感じる ・人との出会いやつながりを感じられる ・その他 ( )
○	22	Q20で <b>ない、あまりない</b> と答えた方へ それはなぜですか？ 最もあてはまるものをお選びください。	選択	・感謝されている、喜んでもらえていると思えなかった ・役に立っていると思えなかった ・支援しても家庭の変化につながらなかった ・自分の成長につながらなかった ・身体的に疲れた ・精神的に疲れた ・その他 ( )
○	23	あなたが支援活動に関わる中で、変化したと感じる家庭はありましたか？	選択	ほぼすべてであった わりと多くあった いくつかあった まったくない その他
○	24	Q23で <b>ほぼすべてであった、わりと多くあった、いくつかあった</b> と答えた方へ あなたが支援した家庭の、どのような場面で感じましたか？(複数回答可)	選択(複数回答) +自由回答	・訪問家庭の親(または子ども)と心が通じたと感じられた ・親(または子ども)の行動が変わった(怒ることが少なくなった、明るくなった、話をしてくれることが増えた、など) ・親(または子ども)の体調(メンタル面含む)が良くなった ・次の訪問時に室内が少しきれいになっていた ・料理や掃除などの家事を少しずつ親自身でするようになった ・その他 ( )
	25	Q24で 複数回答された方へ (単一回答された方はこの質問には答えずそのまま次の質問へお進みください) その中で最もあてはまるもの一つお選びください	選択 (必須ではない)	・訪問家庭の親(または子ども)と心が通じたと感じられた ・親(または子ども)の行動が変わった(怒ることが少なくなった、明るくなった、話をしてくれることが増えた、など) ・親(または子ども)の体調(メンタル面含む)が良くなった ・次の訪問時に室内が少しきれいになっていた ・料理や掃除などの家事を少しずつ親自身でするようになった ・その他 ( )
	26	Q23で <b>まったくない、その他</b> と答えた方へ なぜそう感じましたか？	自由回答	
○	27	あなたが支援の現場に行った時、辛いと思ったことはありますか？	選択	ある ややある あまりない ない
○	28	Q27で <b>ある、ややある</b> と答えた方へ あなたが支援の現場で辛いと思ったのはどんな時ですか？(複数回答可)	選択(複数回答) +自由回答	・訪問家庭から支援を家事代行のようにうけとめられ、対応された ・現場で一人で判断することが多い ・訪問家庭からの拒否を感じた

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・親、もしくは子どもと打ち解けられなかった</li> <li>・親の子どもに対しての不適切な行為を目の当たりにした</li> <li>・親の子どもに対する不適切な対応がずっと変わらない</li> <li>・その家庭のためにしたことが役に立っていなかったと感じた</li> <li>・その他（ ）</li> </ul>
	29	Q28で 複数回答 された方へ (単一回答された方はこの質問には答えずにそのまま次の質問へお進みください) その中で最もあてはまるもの一つお選びください	選択 (必須ではない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問家庭から支援を家事代行のようにうけとめられ、対応された</li> <li>・現場で一人で判断することが多い</li> <li>・訪問家庭からの拒否を感じた</li> <li>・親、もしくは子どもと打ち解けられなかった</li> <li>・親の子どもに対しての不適切な行為を目の当たりにした</li> <li>・親の子どもに対する不適切な対応がずっと変わらない</li> <li>・その家庭のためにしたことが役に立っていなかったと感じた</li> <li>・その他（ ）</li> </ul>
○	30	支援終了後、家庭の大変さなどをひきずってしまうことはありますか？	選択	ある ややある あまりない ない
○	31	Q30で <b>ある、ややある</b> と答えた方へ 気持ちの切り替えはうまくいっていますか？	選択	はい いいえ
	32	Q31で <b>はい</b> と答えた方へ 気持ちの切り替えや気分転換でどんなことをしていますか？	自由回答	
	33	Q31で <b>いいえ</b> と答えた方へ 気持ちの切り替えがうまくいかない場合、どうしていますか？	自由回答	
○	34	Q30で <b>ある、ややある</b> と答えた方へ ひきずってしまう内容を誰かに相談しましたか？	選択	はい いいえ
○	35	Q34で <b>はい</b> と答えた方へ 誰に相談しましたか？ 最もあてはまるものをお選びください。	選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パディチームの事務局</li> <li>・パディチームの子育てパートナー</li> <li>・家族</li> <li>・友人</li> <li>・会社の同僚</li> <li>・その他（ ）</li> </ul>
○	36	Q34で <b>はい</b> と答えた方へ 相談することで解決しましたか？	選択	はい いいえ
	37	Q34で <b>いいえ</b> と答えた方へ 相談されなかった理由をお聞かせください	自由回答	
○	38	パディチームの支援活動を辞めたいと思ったことはありますか？	選択	ある なし
	39	Q38で <b>ある</b> と答えた方へ 辞めたいと思った理由をお聞かせください	自由回答	
○	40	支援を継続するために、自分なりに気をつけていることはありますか？	選択	ある なし
	41	Q40で <b>ある</b> と答えた方へ それはどういったことですか？	自由回答	
○	42	現場での活動以外でパディチームを続けるにあたって大変なことはありますか？	選択	ある なし
○	43	Q42で <b>ある</b> と答えた方へ それはどういったことですか？(複数回答可)	選択(複数回答) +自由回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問家庭が遠い(自宅から距離がある)</li> <li>・家族の反対がある</li> <li>・本業の仕事や家庭との両立が難しい</li> <li>・経済的な理由で続けることが難しい</li> <li>・時給が低いと感じる</li> <li>・体力、健康面の不安を感じる</li> <li>・活動の負担が大きい、または責任が重いと感じる</li> <li>・その他（ ）</li> </ul>
○	44	パートナー同士の交流の機会についてどう思いますか？	選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増やしてほしい</li> <li>・やや増やしてほしい</li> <li>・今のままでいい</li> <li>・減らしてほしい</li> </ul>
○	45	Q44で <b>増やしてほしい、やや増やしてほしい</b> と答えた方へ、どんなことを増やしてほしいですか？(複数回答可)	選択(複数回答) +自由回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修プログラム</li> <li>・情報交換会</li> <li>・お茶会・コーヒーチャット(雑談会)</li> <li>・飲み会</li> <li>・その他（ ）</li> </ul>
○	46	パートナー同士の交流はオンラインと対面のどちらが良いですか？	選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインの方がよい</li> <li>・対面の方がよい</li> <li>・両方選べる(ハイブリッド)</li> </ul>

○	47	事務局とのコミュニケーション（機会、頻度等）についてどう思いますか？	選択+自由回答	満足 やや満足 やや不満 不満 その他（ ）
○	48	事務局に改善や工夫してほしいことはありますか？	選択	ある なし
	49	Q48で <b>ある</b> と答えた方へ それはどんなことですか？	自由回答	
○	50	これからもバディチームでの活動を続けたいですか？	選択	はい いいえ
	51	今後もあなたが支援活動を継続するために、事務局にどんなサポートがあればよいと思いますか？	自由回答	

## アンケートの設問（51問）に対する回答

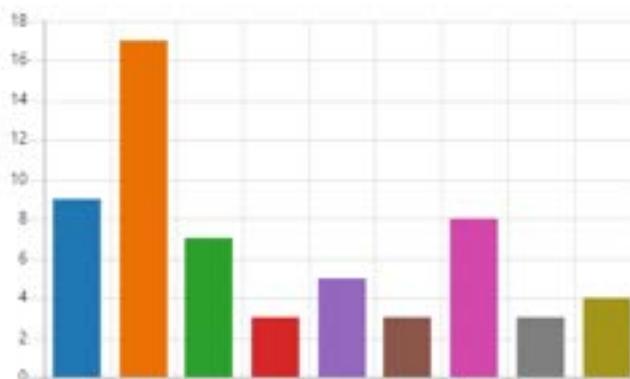
### 1. 年代を教えてください



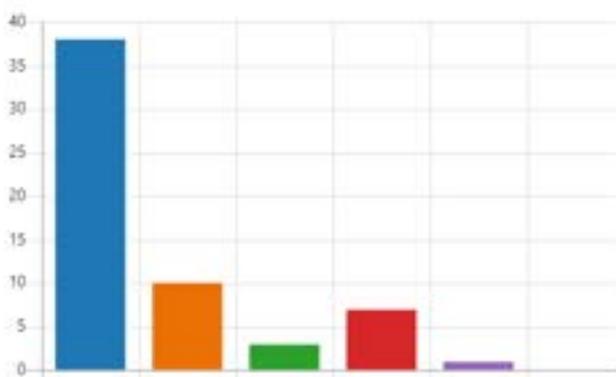
### 2. 性別を教えてください



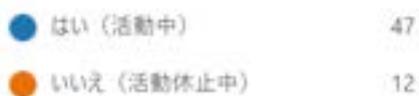
### 3. 現在の職業を教えてください



### 4. お住いの地域を教えてください



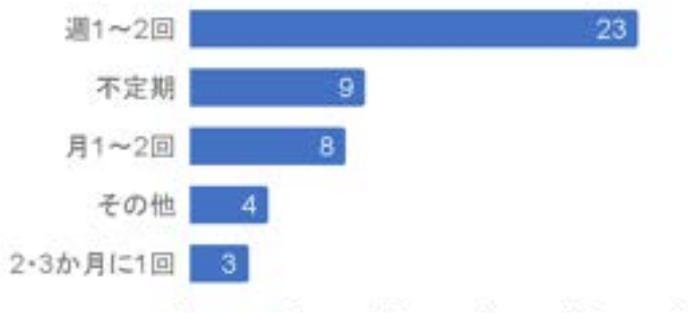
### 5. 現在、支援を行っていますか？



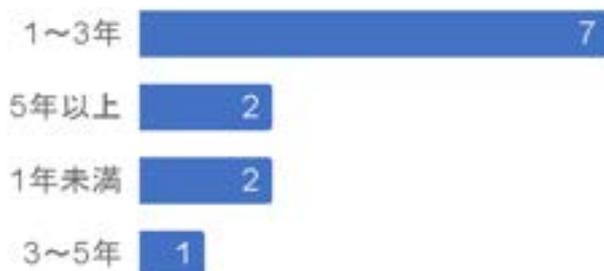
### 6. Q5で**はい（活動中）**と答えた方へ パートナー歴を教えてください



**7. Q5で はい（活動中）と答えた方へ**  
現在の活動頻度



**8. Q5で いいえ（活動休止中）と答えた方へ**  
パートナー歴（休止までの継続期間）を教えてください



**9. Q5で いいえ（活動休止中）と答えた方へ**  
休止の理由を差し支えない範囲で教えてください

**自由回答**

活動可能日、時間帯などが合う案件がない。休止というより待機中と思っている（60代・女性）
ながい事、やられているバディチームさんの何を求めて判断されているのかが私には理解できず、先がみえてきません。という理由で休止させていただいています。（70代以上・女性）アンケートから抜粋
コロナ禍に入り家族の理解を得られないため（50代・女性）
介護のため（50代・女性）
体調不良のため（40代・女性）
子育て支援の活動との両立は難しいと思った（60代・女性）アンケートから抜粋
現在勤務している職場からの指示。コロナ感染の心配があるため、ボランティアを含めた副業が全面禁止となったため（30代・女性）
復職し時間が合わないため（50代・女性）
体調不良のため（50代・女性）
メインの仕事の方が少し忙しくて、精神的な余裕が無い為（50代・女性）

10. あなたはこれまでに何軒の家庭に行きましたか？ だいたいの数字でお答えください。

● 1～10	33
● 11～20	7
● 20～30	5
● 30以上	10
● 覚えていない	4

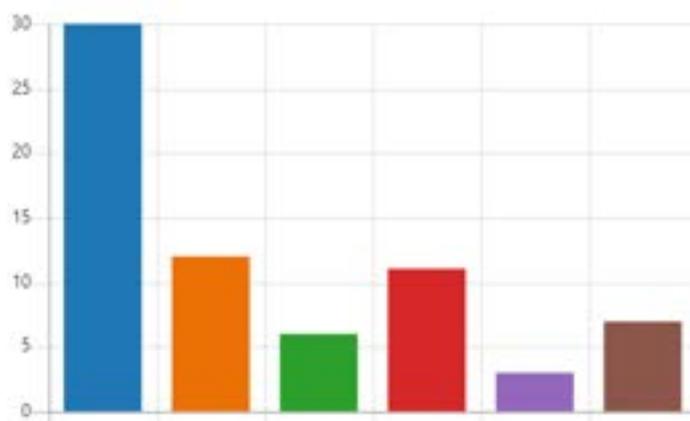


11. 訪問家庭ではどのような支援をしましたか？  
あてはまるものをすべてお選びください

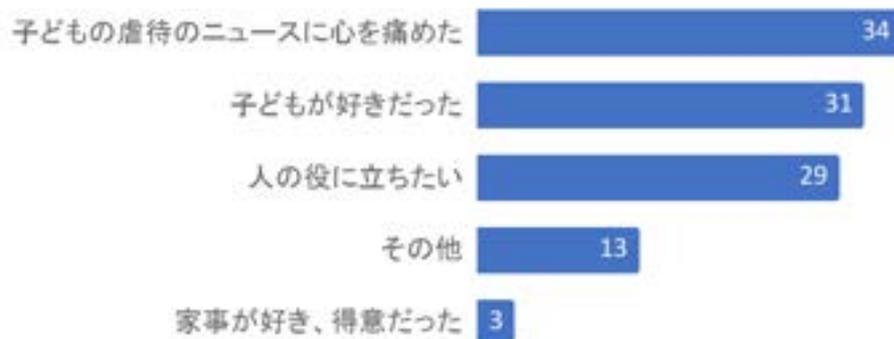


12. バディチームを知ったきっかけを教えてください（複数回答可）

● バディチームのHP、FBページを見た	30
● 検索エンジンから	12
● チラシを見た	6
● 人から紹介を受けた	11
● 講演会・セミナー・イベントなど	3
● その他	7

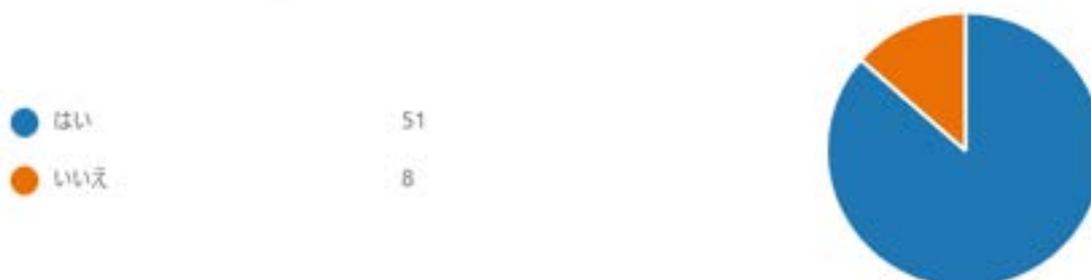


13. バディチームの活動を始めようと思ったきっかけはなんですか？（複数回答可）



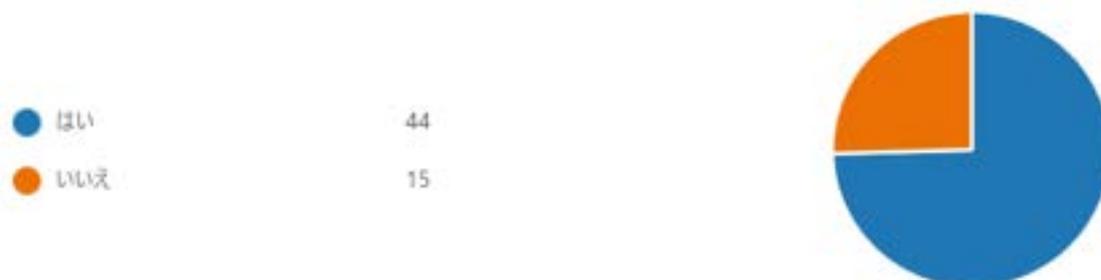
14. バディチームのビジョンは次の通りですが、知っていましたか？

子どもも大人も誰もが互いに支え合い、みんなで子育てすることで  
子どもがすこやかに育つ社会



15. バディチームのミッションは次の通りですが、知っていましたか？

子育てが大変になっているご家庭へ  
バディチームは、子どもも親も「生まれてきてよかった」と思うことができ  
あなたがあなたらしく生きられるように、その歩みを支えます。



## 16. バディチームの活動理念に共感していますか？

● 強く共感する	46
● どちらかという共感する	12
● どちらかという共感しない	1
● 全く共感しない	0



## 17. Q16で強く共感する、どちらかという共感する と答えた方へ どういった点に一番共感しますか？

### 自由回答

みんなで子育てすることで子どもがすこやかに育つ社会というところ。(50代・女性)
誰もが自分事として子育てに関わり、誰にとっても生きやすい世の中を目指す(50代・女性)
ニュースを見ていると、「生まれてきてよかった」と前向きに生きている大人や子供が少ないように感じる中、バディチームの理念のとおり、互いに敬意をもって支え合っていくことが居心地の良い社会を作ることになると思うからです。(40代・女性)
何を支援するというだけで無く、保護者、子どもが生活するのに必要な支援に入り、産んで良かった。生まれて来て良かったと思える環境を作る為の支援をする事。(60代・女性)
育児は、母親だけ家庭のみの責任で行うものではなく、地域社会みんなでするもの、という考え方です。(50代・女性)
子供には置かれた環境などに責任はないので、どの子供達にも普通の日常生活を送ってほしい。(60代・女性)
子育て中や子育て経験の有無に関わらず「社会みんなで子育て」し、人として支え合っていける理念、みな「生まれてきてよかった」と自己肯定できる理念にそれぞれとても共感する。(30代・女性)
社会全体で子育てをするという部分(30代・女性)
互いに支えあいみんなで子育て(50代・女性)
親だけ、子どもだけ、というのではなく、お互い、そこからさらにその周囲の人たちの幸せに向かって活動している点。(40代・男性)
子育ては1人、家庭内で完結して行くものではなく、様々な人と関わり、助け合う社会の中でするものだと思うから。特に、都内では核家族化が進み、自己責任論が強い風潮があるため、バディチームのような助けが大切だと考える(20代・女性)
ビジョン、ミッション全てにおいて共感出来ます。(70代以上・女性)
大人も子どもも支援が必要であり、助け合う一部の人だけではなく社会全体で、というニュアンスがあるところ(20代・女性)
児童虐待の観点から、虐待にならないように母子支援をするという点(50代・女性)
子育てを社会全体で支えること(60代・女性)
いまは、共感していると、、思えません。(70代以上・女性)
親にも子供にもどちらにも寄り添えるところ(40代・女性)
子どもが安心・安全に生活するために親に寄り添うこと(40代・女性)
今、助けを必要としている子どもの支援をしている実績があるから。(60代・女性)
親子に寄り添って支えるところ(50代・女性)
社会全体が子育てを共有していく目標の中で支援側も支援家庭から、たいへん多くの大事なことを学ばせていただくこと。お互いさまだということも教えてもらえること。公共機関と密接に関わることで壁を乗り越えようとしていること。(50代・男性)
子どもが「生まれてきてよかった」と感じることができるよう支援するという点(40代・女性)
支え合い、皆で子育てをするということ(50代・女性)
「子どもの前で決して親のことを悪く言うてはならない」里親研修で肝に銘じるよう指導されたことであってバディチームの場合も、加害、被害の構図でなく、虐待せざるを得ない親への暖かいまなざしがあることに共感を覚えました。自身の子育てを振り返っても、人間的に欠損した部分が多くあったにもかかわらず、それを補い助けてくれた周囲の人たちがいたからこそ、子どもたちの今があると思ひ、そのようなつながりが乏しい現代の日本だからこそ、バディチームのような親子をそのまま受けとめる支援の在り方に

共感を覚えました。(60代・女性)
大人も子どもも生まれてきてよかったと思える社会になって欲しい。私の仕事は『死ぬときに私の人生でよかった』と思えるお手伝いをするのと学生時代から教えられたため(30代・女性)
互いに支えあうこと(50代・女性)
子どもはみんなで見、育てて、守って、生きる力を支えて育てる(60代・男性)
「子どもも大人も」「子どもも親も」というところ(30代・女性)
子どもも大人も年齢の違いこそあれ、ひとりの人格を持った人間・尊厳を持った人間として尊重されることが大事だと思います。子どもは、大人が思っている以上に、大人の在り方を見ながら過ごしていると思います(大人の望む子ども像を演じていることも多いです)。大人も、子どもに対する自分の接し方の善し悪しをとても気にしていると思います。
子どもであれ、大人であれ、生きづらさを抱えた方々や行き詰まり感を感じている方々が、その難しさと折り合いを付けながら(乗り越えとか克服するとか大層なことではなく)、この世に生まれて来て良かったと思えるようなサポートがしたいと思っています。ご利用者様の「伴走者」でありたいと思っています。
そうした僕個人の信条と、パディチームの信条は合っていると思います。(50代・男性)
大人も子どもも全て支え合うというところ(50代・女性)
区と協働で支援にあたっているところ。 親身であること。(60代・女性)
子どもがいない大人でも「社会みんなで子育て」をすることにより子育てに関わることができ、孤立していたり何かしらの事情を抱えている家庭は「社会みんなで子育て」をすることにより、問題解決や明るい未来を想像できるようになるというところ(40代・女性)
子どもだけでなく親の幸せも追求する点(20代・男性)
生まれてきた良かったと思えるような支援(60代・女性)
支え合い、自分らしい生活ができるようにする事(50代・女性)
子どもだけでなく親、環境にも目を向けている。(50代・女性)
共に生きる、ということが、簡単なようで難しく、大切なことだから(60代・女性)
お互いに支え合い、みんなで子育てする(40代・女性)
子育ては家族だけで完結するものではなく、その家庭にまつわる地域社会も同じように家庭を支えていくことが大切だと感じております。虐待という言葉だけを取ると親が悪いという認識を持たれがちですが、その背景には様々な要因があるとパディチームの活動を通して知ることができました。(30代・女性)
「想い」を短い文で表現することは難しいです。「想い」が短い文章から強く伝わります。「おっしやる通り！」と思う為。(40代・女性)
みんなで(社会で)子育てをしよう。自分らしく生きられるようサポートする。という理念(60代・女性)
子供を守るだけではなく、親も子供も共に支援するところ。(50代・女性)
子ども、子育てしている人、保育に関わっている人、それを支える人が互いに相手のため、自身ために生きていることを喜び合える社会をつくること(60代・女性)
「誰もが互いに支え合う」という点。本業の障害のある方の支援をしていくなかでもとても大切な視点です。自分が辛さや大変さを抱えていると、孤立を選択しがちです。理由は自分を他の人と比較してみじめにならないようにとか、他者に迷惑をかけるのが申し訳ないとかその人さまざまだとおもいます。「誰もが互いに支え合う」ということが当たり前になれば、孤立を選ばずにみんながもっと生きやすくなると思います。(30代・女性)
子どもも大人も支え合うことが大切という点(40代・女性)
子育てに困っている人の目線にたった支援を目指しているところ(60代・女性)

**18.** あなたが支援に入る前にイメージしていたことと、支援後で何かギャップはありましたか？

● ある  
● なし

31

28



19. Q18で ある と答えた方へ  
それはどのようなことですか？

自由回答

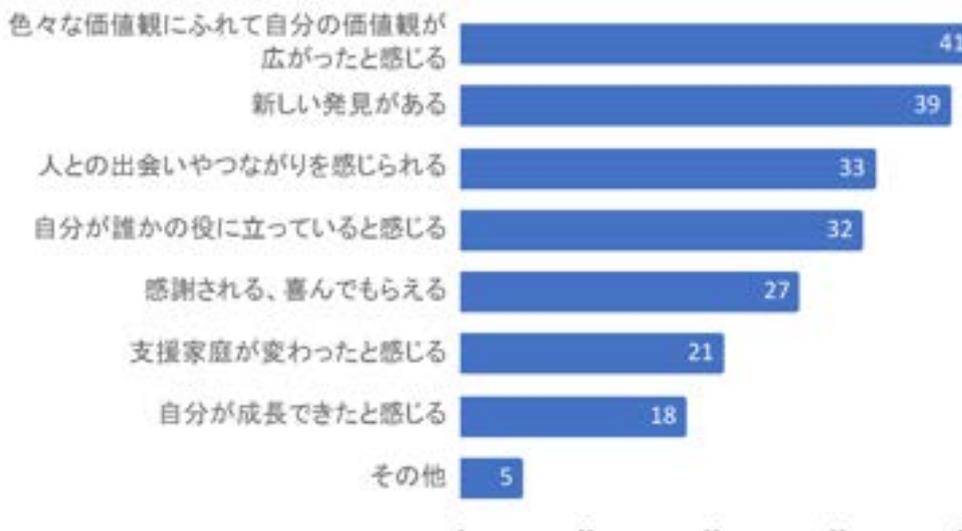
ベビーシッターくらいに考えていたが、親子共に悩んでいる人達が多いなあと思いました（50代・女性）
どこにでもある普通の家庭であること（50代・女性）
支援前は経済的に苦しい家庭ばかりだと思っていましたが、普通の暮らしができていない家庭も対象だったこと。（40代・女性）
行政を拒否されていたり、行っていない事を言われた等（60代・女性）
区によって、支援の内容や支援期間にだいぶ差があることに戸惑いました。（50代・女性）
もう少し時間があれば、子供とじっくり向き合えるのにと思うことがある。（60代・女性）
想像以上に家事 育児に困っている家庭がありコミュニケーションをとるのが難しい方が多い事（50代・女性）
支援はその家庭内の事だけと思っていたが、周囲、家庭を足り巻く環境の協力など、多くの事を含めての支援だったこと。（40代・男性）
団体に所属している以上、個人的な思いや考え方は控えなくてはいけないこと。時々もどかしさを感じます。（70代以上・女性）
支援が本当に必要なのか疑問に思うご家庭もあります（50代・女性）
ひとりで抱え込み、助けを求められずにいるお母さんたちがとても多いということ。（40代・女性）
子どもの支援にきてもらってる意識が低い。親も子どもも家政婦くらいの感覚なので驚いた。（60代・女性）
公私混同しないようにバディチームの方々がしっかりアドバイス、フォローしてくださること。これによってパートナも訪問家庭も安心信頼出来ること。（50代・男性）
貧困家庭の支援をイメージしていたが、どちらかという裕福なご家庭に支援に出向いたこと（40代・女性）
思った以上に肉体的にも精神的にも大変に感じた。家庭の事情、個性、個人の背景が皆違うので、それぞれに配慮することが違い、かなり集中力が必要だった。（50代・女性）
相互の認識の違いでトラブルが起きる事（50代・女性）
（全く想像していなかった訳ではありませんが）頑張っていない親には1人も会いませんでした。皆それぞれの背景の中で、葛藤し、悩んでいました。（50代・女性）
実際に現場に入ることによって見えてくるのが様々あるということ。もちろん、事前に事務局から情報は頂いておりますが、自分の肌感覚で感じることはいっそうリアリティがあります。特に事務局からの事前情報が間違っていると感じたことはないですが、より深いご利用者様の理解を出来るように努めているつもりです。（50代・男性）
金銭的に大変だったり、子供が多くて手が回らない、家族が病気で生活滞っていて、本当に物質的にも精神的にも大変なご家庭を想像していましたが、裕福な家庭がほとんどで、教育の自信のなさや焦りで悩まれている方が多い。（50代・女性）
現在は真面目で一生懸命な人ばかりだが、以前は明らかにやる気の無い人が目立った（40代・男性）
想像以上に家庭に入り込む必要があるということ（20代・男性）
単なる『お手伝いさん』としか扱われない事（上から目線で指示される等）。ゴミ屋敷に近い家の清掃。調理道具等が無い状態での調理（60代・女性）
家庭によって、支援の仕方がそれぞれ違うこと。（50代・女性）
キャンセルがとても多いこと。（50代・女性）
以前、保育現場にいましたが、保育園で見ていた保護者の方の姿はあくまでも外の顔であって、また家庭に入ることはその人のリアルな姿が見ることができると感じました（30代・女性）
私は私の家庭しか知らないので、毎回初見で戸惑います。（60代・女性）
バディチームスタッフとパートナーとは、対象者の情報や未来の見通しに温度差があるのを感じた（60代・女性）
ここまで丁寧にフォローアップしていただけたとは思っていませんでした。利用者の方がより良い支援をうけられるよう、専門家ではなくそこにいる地域の人々がパートナーとなり力を発揮できるようにされているなど感じます。（30代・女性）
お宅に支援に行く経験がなかったので、支援前のイメージがあまりありませんでした。そのため、すべて新しいことで新鮮でした。（40代・女性）
事前情報から自分がイメージしたご利用者さまと、実際のイメージが異なる場合があるから。（60代・女性）
支援が必要なのは“貧困家庭”というイメージがありましたが、経済的に余裕があり、周りからは支援が必要ないように見えない家庭でも、実は支援が必要な場合があるということ。（60代・女性）

20. あなたが支援を行うことで、自分にとってプラスに感じることややりがいがありますか？

● ある	49
● ややある	10
● あまりない	0
● ない	0



21. Q20で **ある、ややある** と答えた方へ  
それはどんなことに対してですか？（複数回答可）

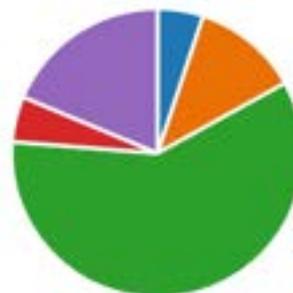


22. Q20で **ない、あまりない** と答えた方へ  
それはなぜですか？最もあてはまるものをお選びください。

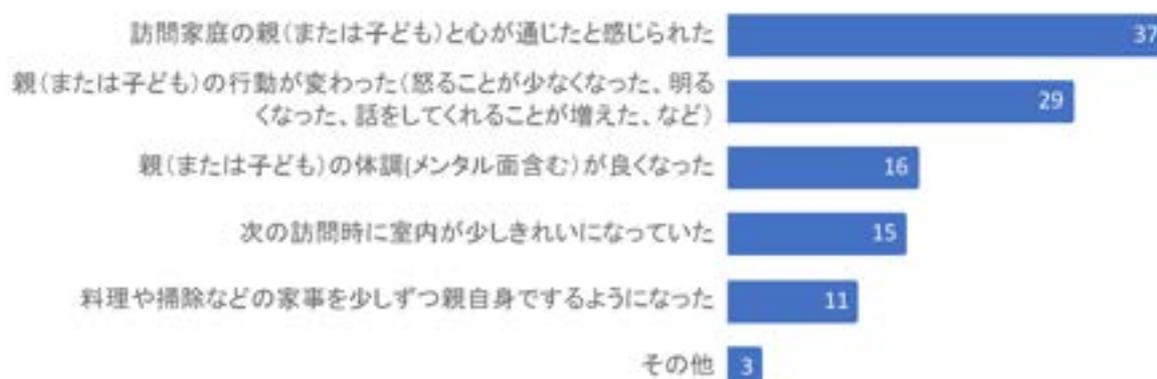
役に立っていると思えなかった	0
精神的に疲れた	0
身体的に疲れた	0
自分の成長につながらなかった	0
支援しても家庭の変化につながらなかった	0
感謝されている、喜んでもらえていると思えなかった	0
その他	0

23. あなたが支援活動に関わる中で、変化したと感じる家庭はありましたか？

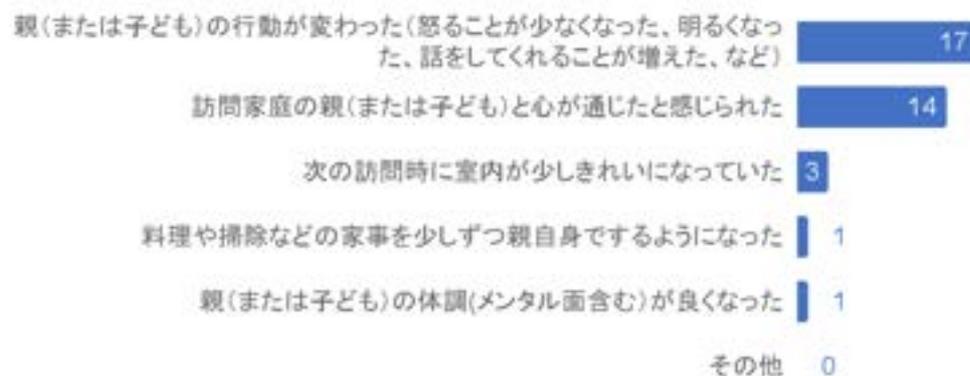
● ほぼすべてであった	3
● わりと多くあった	7
● いくつかあった	35
● まったくない	3
● その他	11



24. Q23で ほぼすべてであった、わりと多くあった、いくつかあった と答えた方へ  
あなたが支援した家庭の、どのような場面で感じましたか？（複数回答可）



25. Q24で 複数回答 された方へ  
その中で最もあてはまるものを一つお選びください



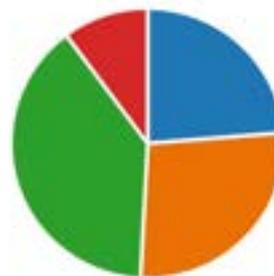
26. 【Q23】で **まったくない、その他** と答えた方へ  
なぜそう感じましたか？

自由回答

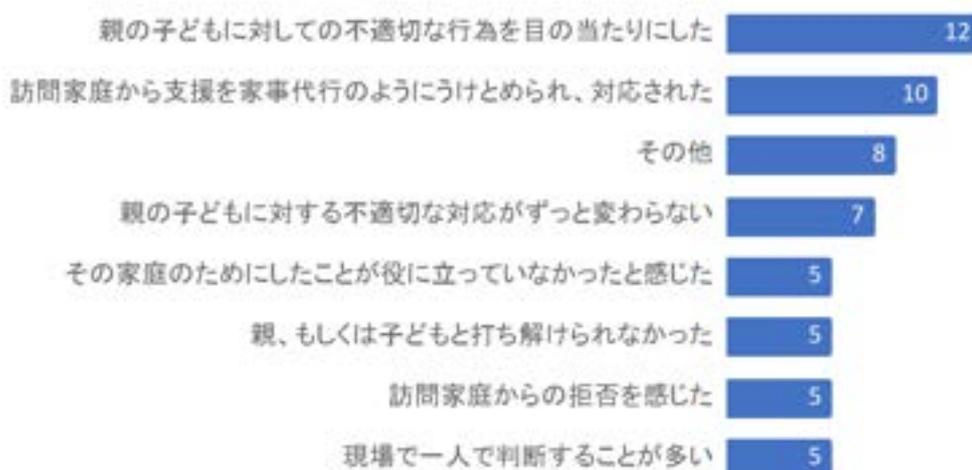
その時助かっているとおもいますが、ご利用者さんの考えもご家族の考えも変わらないと思います。(50代・女性)
短期の支援だったため(70代以上・女性)
訪問頻度が低く変化に気づくまでに至っていない(40代・女性)
ご家庭のその後がわからないので、本当のところはわかりません。(50代・女性)
家庭が変わるまでの深い支援はできていないように思う(40代・女性)
家族だけの時の状況は見れないの判断できない(40代・女性)
もともと親子関係は良好な家庭なので、ただお母さんの休み暇がないだけのような気がするので「変わった」という感じがないため。(50代・女性)
ある程度安定してから訪問させていただくようになったので、以前のことが分からず変化があるのだと思いますが、明確に言い切ることに難しかったので「わからない」という回答にしました。(40代・女性)

27. あなたが支援の現場に行った時、辛いと思ったことはありますか？

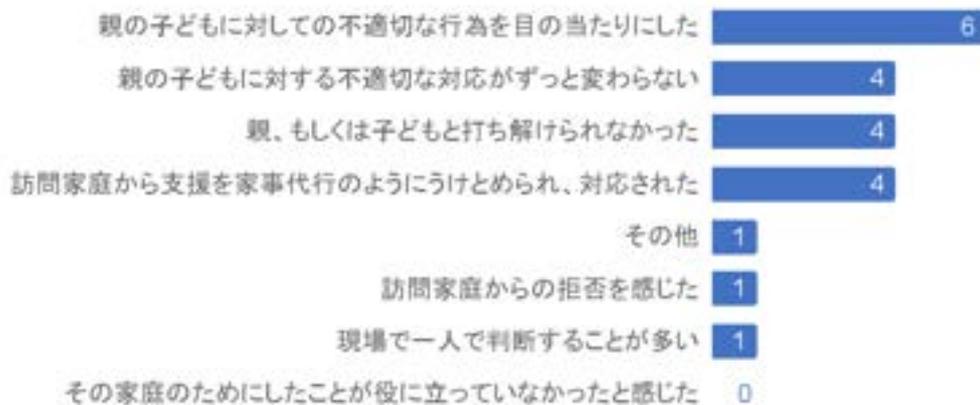
● ある	14
● ややある	16
● あまりない	23
● ない	6



28. Q27で **ある、ややある** と答えた方へ  
あなたが支援の現場で辛いと思ったのはどんな時ですか？(複数回答可)



**29.** Q28で 複数回答 された方へ  
 その中で最もあてはまるものを一つお選びください



**30.** 支援終了後、家庭の大変さなどをひきずってしまうことはありますか？

● ある	6
● ややある	18
● あまりない	23
● ない	12



**31.** Q30で **ある、ややある** と答えた方へ  
 気持ちの切り替えはうまくいっていますか？



**32.** Q31で **はい** と答えた方へ  
 気持ちの切り替えや気分転換でどんなことをしていますか？

**自由回答**

自然に子どもと接していると元気になるので (60代・女性)
帰り道に散歩、甘いものを食べる。友人とのたわいのないおしゃべり。(50代・女性)
音楽を聴く、気持ちを書き出してみる (30代・女性)
日常の仕事、趣味など。(40代・男性)

暴力がうまれる社会構造や心理構造の知識を増やす (20代・女性)
まずは、コーディネーターさんがいろいろと話を聞いてくれることが気持ちの整理につながる。自治体との仲介もしてくれることで共通理解しあえるので、抱え込みすぎないでいられる。(50代・女性)
事務局に報告をする。読書する。(40代・女性)
なかなか切り替えや気分転換では気持ちは晴れないので特には何もしません。支援で関わる機会には短い時間や短い期間であっても自分の出来ることを精一杯にやる！という思いで取り組み、あとは割り切るしかないと考えます。(50代・女性)
自分が訪問しない時は、ほかのパートナーが関わってくれている、と信じる。自分の出来ることを精一杯やり切っていると聞いて聞かせること。次は、もっと善い訪問に出来るよう日々、研鑽を積むこと。(50代・男性)
帰りにカフェでコーヒーを飲む。人生哲学を学ぶ。(50代・女性)
人はそんなにすぐに変わるものではないと思うし、また絶対変わらないと決めつけられるわけでもないと思う。縁あって関わることができた、ご家庭、親御さんやお子さんに対して、自分としては精いっぱいのことをしたつもり、だから支援が終わっても、なにか底辺のところ、そのつながりが継続していくような気がしています。関わったこと自体は感謝なことです。(60代・女性)
美味しいものを食べる (50代・女性)
事務局の先輩パートナーに相談する。趣味の充実。(30代・女性)
報告事項は、その日のうちにまとめ、翌日にはすべて忘れる。良かったことだけ考える。(40代・女性)
その家庭に行かなくなった (50代・女性)
支援時間以外は別のことを考えるようにしている (50代・女性)
趣味や自分の時間を持つ (40代・女性)
事務局の方に報告する。おいしいもの、好きなものを食べる (30代・女性)

### 33. Q31で **いいえ** と答えた方へ

気持ちの切り替えがうまくいかない場合、どうしていますか？

#### 自由回答

家族との会話など (50代・女性)
どうもしない (60代・男性)
どうすればいいのかわからない。(40代・男性)
気になる点と理由を自分なりに考えて、次回の支援内容を再検討することで解消するように努めている。(60代・女性)

### 34. Q30で **ある、ややある** と答えた方へ

ひきずってしまう内容を誰かに相談しましたか？



35. Q34で **はい** と答えた方へ  
誰に相談しましたか？最もあてはまるものをお選びください。



36. Q34で **はい** と答えた方へ  
相談することで解決しましたか？



37. Q34で **いいえ** と答えた方へ  
相談されなかった理由をお聞かせください

#### 自由回答

守秘義務があるため (30代・女性)
相談しても解決する訳ではないので。(50代・女性)
自分で消化できた (50代・女性)
27で回答したように、そこまでひきづっていなかったのだと思います。 支援が終わると、自分の日常でも向き合うべきことがたくさんありましたから。(60代・女性)
自分で解決したから (50代・女性)
解決するつもりがないから (60代・男性)
これまでのストレスのほとんどは、すでに辞めた人が原因。(40代・男性)
どう伝えて良いかわからなかった。(50代・女性)
守秘義務があるから (50代・女性)

38. バディチームの支援活動を辞めたいと思ったことはありますか？



39. Q38で**ある**と答えた方へ  
辞めたいと思った理由をお聞かせください

自由回答

保護者の気持ち、コロナ変わり辛くなりましたが、理事長とお話しすると、頑張ろうと思える (60代・女性)
精神的につらく感じる (50代・女性)
バディチームの支援の仕方に納得がいかなかったがありました (70代以上・女性)
バディチームの、パートナー (私) にたいしての、考えが分からない (70代以上・女性)
介護・仕事・他ボランティアとの両立で超多忙になってしまったため (50代・女性)
仕事、両親の介護、等々で時間的余裕がなくなったことがあるので (50代・男性)
体調が悪い時。元気でなければ支援は難しいと感じた (50代・女性)
体力的なことから (50代・女性)
いわれのないレッテルを貼られたから (40代・男性) アンケートから抜粋
支援先の方の対応が酷かった時。お母様のお礼の言葉も笑顔も無かった時 (60代・女性)
訪問家庭があまり大変なご家族だから (50代・女性)
訪問当日玄関のインターフォンを押すが不在だった (60代・女性)

40. 支援を継続するために、自分なりに気をつけていることはありますか？



41. Q40で**ある**と答えた方へ  
それはどういったことですか？

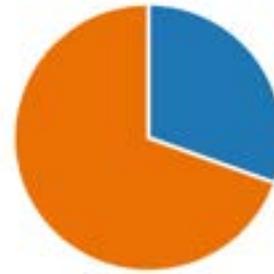
自由回答

心身共に無理なく活動する。 (50代・女性)
親子に対して明るくにこやかにふるまうこと、嫌そうな顔をしないこと (40代・女性)

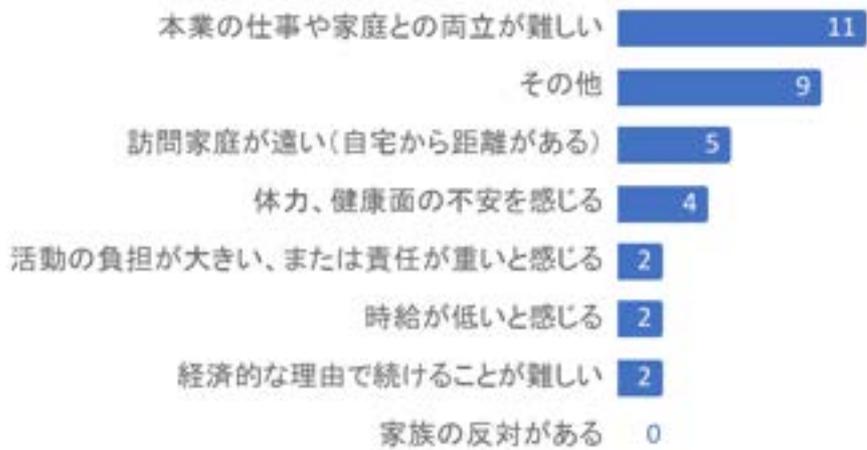
心身の健康管理。何かあったら事務局に相談すること。(50代・女性)
保護者の精神状態を観察する。(60代・女性)
先入観を持たないこと。いただいた個人情報(住所、お子様の年齢的)だけ頭に止め、会えることを楽しみにして訪ねること。(30代・女性)
自分の考えを押し付けない、など(30代・女性)
短期に改善すると思わない 長期的にみて今より少し気持ちの変化があるといいな と思っている(50代・女性)
支援に入る家庭、子ども、親との距離感。(40代・男性)
何事も自分の意識次第ということです。(70代以上・女性)
自分の価値観に合わせすぎないこと。(50代・女性)
支援活動に徹しています。(50代・女性)
前回の訪問からの学び(70代以上・女性)
本人の持つ力や意志に沿った支援について日々考える(40代・女性)
自分自身を常に健やかに保ち続けること。訪問相手に不快感を与えないよう無理をしないこと。(50代・男性)
仕事や家事、子育てなどと両立して無理のない範囲で出来ることをやっていこうと考えている。(40代・女性)
自分の生活を犠牲にするような無理はしないこと(40代・女性)
時間が終わったら忘れる。深く考えない。(30代・女性)
フラットな気持ちでいること(50代・女性)
保育の勉強(60代・男性)
考えない時間も作ること(30代・女性)
①しっかりと観察して、状況把握すること。②その時感じた自分の実感をなるべくリアルに事務局とキャッチボールして、連携を取ること。③「もっと、こうすれば良いのに～」と感ずることがあっても、いったん引いて、なぜそのやり方を選んでいるのか理解すること。相手を理解すること。④どこまで踏み込んだ対応をすべきなのか、事務局と十分に相談すること。⑤ここが一番大事ですが、ご利用者様・対象児の「伴走者」であること。肯定感を生み出すような接し方をすること。(50代・男性)
時間帯を昼間に変える(50代・女性)
プロ意識や責任感を持つ。時間を守る。自分勝手な理由で休まない。(すべて仕事なら当然)(40代・男性)
支援家庭への詮索をしない。深く自分から働きかけず、自然な形で支援する。(60代・女性)
保護者の意見・意向を受け入れる。自分の意見やアドバイスを言わない。いつも明るくニコニコする。ポジティブな言い方を心がける。子どもが興味ありそうなことを探る。(40代・女性)
支援は基本的に1人なので、閉鎖的にならないように報告連絡相談をしている(20代・男性)
つかず離れずの距離を保つようにしている。(50代・女性)
一貫した共感性、傾聴、寄り添う(60代・女性)
ご家庭に長く入っていると、いつの間にか変化を求めてしまうことがありました。しかし、事務局の方から、私たちの支援は変えることではなく支えることだと聞き、改めてバディチームの活動の意味を感じました(30代・女性)
毎回リセットする、引きつらない。(50代・女性)
「上手く支援ができなかった」「複数の問題が絡んだご家庭のように感じた。このご家庭以外にもこのような家庭はあるはずだ」等感じたときは、思い切り向き合う。時には向き合いながら泣いてしまったことも。それでも、ご家庭当人の方々の方がもっと辛いはず。彼らの一助になりたいので、考えたり学習したり勉強会に参加したり、インプットとアウトプットを続ける。(40代・女性)
自分の価値観で判断しない。報告を欠かさない。相手を否定しない。(40代・女性)
馴れ合いにならないよう距離を置くようにはしますが、心に寄り添えるような気持ちで望むこと。(50代・女性)
毎回その都度気持ちも新たにし気あいを入れている(60代・女性)
たくさんの方によるサポート体制があるので、自分だけで抱えこむような行動や考えをしないこと(40代・女性)

4 2. 現場での活動以外でバディチームを続けるにあたって大変なことはありますか？

● ある	18
● なし	41



4 3. Q42で **ある** と答えた方へ  
それはどういったことですか？（複数回答可）

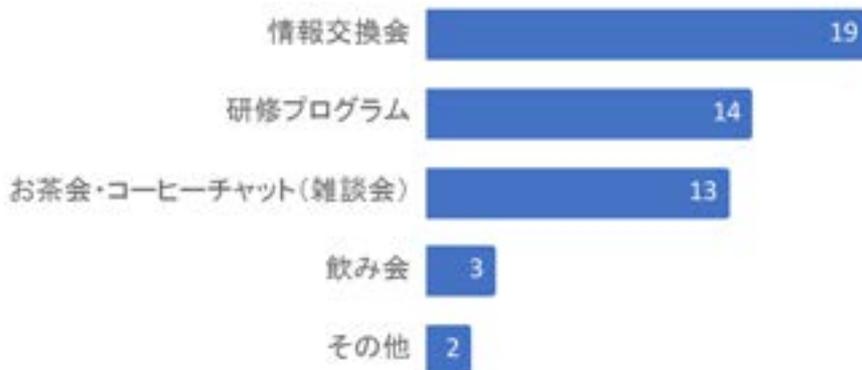


4 4. パートナー同士の交流の機会についてどう思いますか？

● 増やしてほしい	9
● やや増やしてほしい	13
● 今のままでいい	37
● 減らしてほしい	0



45. Q44で増やしてほしい、やや増やしてほしいと答えた方へ  
 どんなことを増やしてほしいですか？（複数回答可）



46. パートナー同士の交流はオンラインと対面のどちらが良いですか？



47. 事務局とのコミュニケーション（機会、頻度等）についてどう思いますか？



48. 事務局に改善や工夫してほしいことはありますか？



**49. Q48である と答えた方へ  
それはどんなことですか？**

**自由回答**

予定の報告をweb上にスケジュール（カレンダー）を置き、自ら入力出来ると良い。（50代・女性）
事務局の人数が近年増えているみたいだが、子育てパートナーの人たちが置いてきぼりになっているなど感じることもある。「使い、使われる」というような図式までには今はまだなっていないと思うが、チームとしてへもっと一丸となれるような交流がほしい。（30代・女性）
報告書を、デジタルで送信出来るようにして欲しい。（20代・女性）
各自治体の方針などにより難しさはあると思いますが、報告などの提出はメールなどのオンラインになると便利だと思います。（40代・女性）
提出書類が多いこと（40代・女性）
同じ家庭の支援が続く場合、予定や時間変更などを事務所を通さずにやりとり出来たらいいなと思いました。（50代・女性）
メールより、直接電話か文書で対応していただきたい（60代・女性）

**50. これからもパディチームでの活動を続けたいですか？**



**51. 今後もあなたが支援活動を継続するために、事務局にどんなサポートがあればよいと思いますか？**

**自由回答**

事務局の方との交流がもっと、あったら、誰にでも相談しやすくなるのかな？やっぱり、顔も知らない方だと、踏み込んで相談しにくいです。親切な対応はしてくださるので、ありがたいのですが..事務局の方と、しっかり、パートナーになれたら嬉しいです（50代・女性）
十分サポートしていただいています。（50代・女性）
こちらが急に都合悪くなり、行けなくなってしまった時のバックアップ要員の確保（40代・女性）
立場上、行政との関わりが有るので、今のままで。（60代・女性）
食事をつくることが多いので、ほかのパートナーさんがどんなメニューをつくって喜ばれたか、そのレシピなどを教えてほしい。（50代・女性）
情報共有の場。特に複数のパートナーさんが訪問している家庭について。（30代・女性）
普段からよく支えていただいているのでとくに思いつかないが、今後もオレンジワークのようなイベント参加、赤十字社との提携による講習の機会などがあると良いと思います（30代・女性）
稀に事務局内での引き継ぎが滞ったり上手くいって無いことがあり連絡の行き違いなどがあるが、概ね活動しやすくしてもらっている。（40代・男性）
いつもサポートいただき本当にありがとうございます。保育や家事の知識があまりなく、後から「これ試せば良かったかも」ということがあるので、パディチームの通信などで豆知識を教えていただけると嬉しいです。（イヤイヤするお子さんへのアプローチ方法、ベタベタの食器の洗い方、など）（20代・女性）

zoomで定期的に訪問家庭の他のパートナーや担当者とコミュニケーションをとる(表情や声のトーンがわからない・わからない時にわかるまで質問しづらいコミュニケーションが苦手なため) (20代・女性)
ご利用者さんについての情報、困ったときの対応など今まで通り続けていただければとおもいます。いつも丁寧に連絡いただき感謝しております。(50代・女性)
訪問を中止するにあたっての明確な説明 (70代以上・女性)
いつもサポートしてくださってありがとうございます (40代・女性)
いつもきめ細やかなサポートをしていただいております、安心して活動できる。(40代・女性)
学びの機会(研修)の(50代・女性)
これまで通りに、風通しの善い繋がり、対話をお願い致します。困難に皆んなで関わって解決していけますように、善い意味で「おせっかい」し続けましょう。(50代・男性)
提出書類や報告の、時間的と手間と削減 (40代・女性)
今まででも多忙の中親身に対応してくださり、今以上のことは浮かばない (50代・女性)
これまで通りで大丈夫です。皆さん、話しやすく、安心できます。(30代・女性)
いつも温かい言葉によって助けてもらっているので、特にありません。(50代・女性)
今の良さが今後も続き、さらに向上していけばそれでもいいと思う。(40代・男性)
同じご家庭に入っているパートナー同士の意見交換が出来るとうれしいです (40代・男性)
支援を見直す機会があると自分の支援を振り返れるので、そういう機会を作って欲しいです (20代・男性)
今でもありますが、時々電話で直接話す機会があるとメールするほどではないけど気になった事も話しやすいです。(50代・女性)
事務局側の苦勞や難しさを知る機会があると良いと思います。事務局目線でのミッションの進め方のような話を、サポーター～事務局間でしっかりコンセンサスを取ることに寄与すると思います。これは、僕個人がどうこうではなく、サポーター全般にとって、事務局～サポーター～ご利用者様が上手にトライアングルで連携・関係性が潤滑になることが、サービスの向上につながると思うからです。以下、ちょっとその意味合いを考えてみたいと思います。 <ご利用者様目線> ○現場では、基本的にサポーターと自分の1vs1。お互いが心地良い関係になれることがベスト。 ○サポーターとは○○という話になったのに、事務局からそれを修正された場合に感じる違和感。 ○サポーターとの関係性、事務局との関係性、何を優先すべきなのか分からなくなってしまう懸念。もっと言えば、ここに行政当局も絡んできます。 <サポーター目線> ○基本的には、自分の都合さえつくのであれば、ご利用者様のためになるようにしたいと思う人が多いと思います。 ○一方で、やって良いことやっちゃいけないこと、やるべきこととやるべきでないこと、このあたりの区分が実体験を通じながらでないと落とし込めない時があります。 ○ご利用者様から見たら、サポーターであれ事務局スタッフであれ、目の前に現れた人間がバディチームを代表して来ていると思うだろう、ということ。したがって、なるべく明確に現場で示せるようになった方が良いと思います。 さて、話しが長くなりましたが、上記三者の三角形に加えて、実際問題は行政も加えた四角形ですね。四角形とは言っても、行政とはバディチーム事務局という頂点からしか事実上つながっていないですよ。やっぱり、ここが見えづらいということがネックになっている気がします。その意味で、〇〇区の場合は、行政・事務局・サポーターの三者面談をさせて頂けたことは非常に有用でした。(50代・男性)
いつもあまりまるぐらゐの支援をしていただいております。続けられるのも、事務局スタッフの方のサポートがあるからです (50代・女性)
疑問に思ったこと等、事務局の方にはいつも話を聞いてくださり、一緒に考えてくれています。私もその場だけで終わることなく学びに繋がっているのととても勉強になっています。(30代・女性)
月に1度の通信をいつも楽しみにしております。通信を書き、印刷し、封書で郵送する作業を考えるだけでも頭が下がります。大変だと思いますが、こちらの通信はできれば継続していただけると嬉しいです。(40代・女性)
支援活動の回数を増やす (40代・女性)
同じ家庭に入っている他のパートナーさんと情報交換できる機会があると良い (60代・女性)
難しいケースだと感じた時に話を聞いていただきたい (60代・女性)
いつもきめ細やかなサポートありがとうございます！十分だと思いますが、区のやり方なので難しいのですが、報告書がこういうオンラインで簡単にできるようになればなと思いました。運営についてはわかりませんが、支援に携わってきて、とても有意義でしっかりした考えの元活動されてる組織だと感じていますので、もっとバディの活動が広く伝わればなと思っています。あとはどうしても自身の生活があるため、余力での関わりになってしまうのが申し訳ないとも感じています。(50代・女性)
急遽予定していた活動に出られないときに快く対応くださることがとても助かっています。特に今以上に求めることはありません。いつも細やかな心遣いをありがとうございます。(40代・女性)
事前情報の充実。(利用者の特性や特徴を事務局で把握してくれているとありがたいです) 困った時の相談と判断。(60代・女性)
初めて訪問するご家庭には、最初だけ一緒に行って欲しい。LINEを使った連絡 (50代・女性)

